

第十五卷

まおゆう

Archenemy
and Hero

魔王 勇者

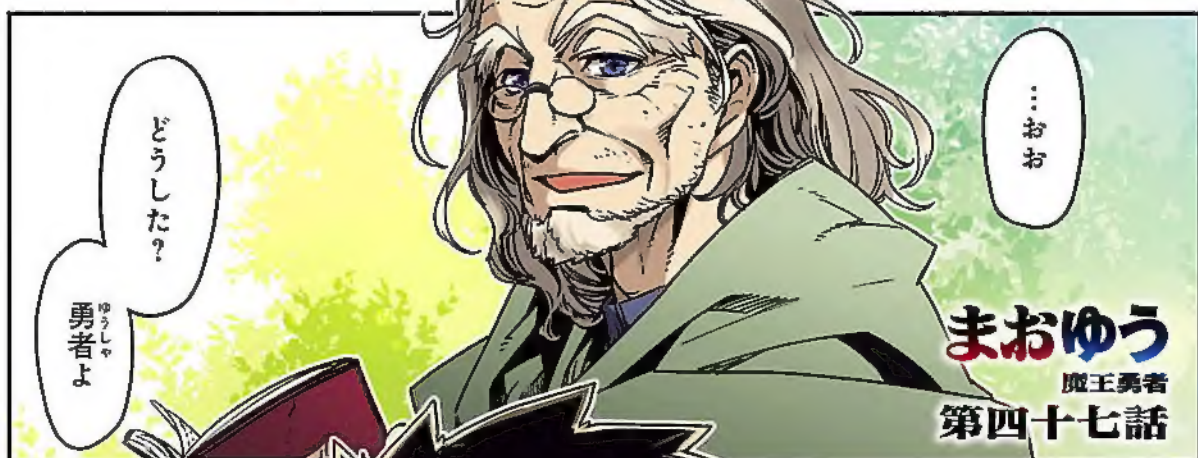
「この我のとなれ勇者よ」 「断る！」

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉曼之丞・toi8

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者





漫画 原作
石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉量之希・toi8



Archenemy
and Hero

魔王 勇者

「この我のとなれ勇者よ」 「断る！」

まおゆう

魔王勇者

第十五卷

漫画 原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第四十七話 Archenemy and Hero
47th chapter

001

今この時より名乗りましょう

第四十八話 Archenemy and Hero
48th chapter

047

明日のために!

第四十九話 Archenemy and Hero
49th chapter

103

期待せよ、いつかはじまるお前の物語に



まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第 十五 卷

漫画原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案

水玉螢之丞・toi8

コラムページ

竹之内大輔(レッカ社)

野村昌隆

「魔王」と「勇者」の劇的な出会いから3年。人間界の「冬越し村」を拠点に始まった二人の活動によって、世界はその姿を大きく変えていった。魔王がもたらした技術や知識によって、「冬の国」や「鉄の国」、「氷の国」といった南部の人々の暮らしは大きく改善。国力をつけた三国は大陸に君臨する「聖王国」や「中央聖光教会」からの自立を果たし、のちに大陸東部に位置する五カ国と七つの独立都市をふくめた「南



部連合」の結成に至った。一方、魔界では魔族の大会議である「忽鄰塔」で発生した魔王暗殺未遂事件をきっかけに、有力氏族長たちの結束が強化されていく。そして、地上へ侵攻した蒼魔族の討伐や新たに開始された街道の整備事業などを通じ、これまでにな

こうした世界の変化は、おおむね魔王が予測していたものでもあった。しかし、この過程で流出したマスケットに関する技術が聖王国に新たな軍制



略軍が、人間と魔族とが共存する「開門都市」に迫る。6万の魔族軍は敵の数を減らそうと野戦を挑むが、遠征軍の飽和攻撃の前に3万という甚大な被害を受けて退却。人間界から戻った魔王や「銀虎公」の働きで全滅はまぬがれたが、乱戦のなかで魔王をかばった

銀虎公も戦死する。開門都市が危機を迎えるなか、蒼魔族の地に到着した「王弟元帥」の前に「メイド姉」が立ちはだかる。人間界では修道院騎士団や義勇兵を率いた「女騎士」が出發し、南部連合も派兵を決定。主だった人々が魔界へと集まりはじめた――。



と新兵器・大砲の発明をもたらし、予想外の問題を引き起こす。それが、聖光教会の首長・「大主教」が興した「第三次聖鍵遠征軍」だ。大量生産されたマスケットは短期間での兵士育成を可能とし、聖鍵遠征軍は30万という未曾有の大軍が動員された。「聖骸」を求めて動き出した彼らは「蔓穂ヶ原」での戦いを経て魔界に侵攻。補給地確保のため蒼魔族の地に向かった分遣隊5万を除く攻



魔王



「外なる図書館」で得た知識をもとに、世界の変革を目指す魔族の王。魔族と人間、双方の未来のため、現在は開門都市の防衛にあたっている。

メイド長



魔王の側近。彼女の幸せを願い、その夢を叶えるため、手足となって尽力している。

メイド姉

魔王の館で働いていたメイド。自分の意志で、傭兵たちと独自に行動している。



女魔法使い



元「勇者の一行」のひとり。知識を武器に、勇者の力となるべく独自に行動している。

メイド妹



メイド姉の妹。食いしん坊が高じて料理の道に目覚め、現在は鉄の国で修業中。

冬寂王

冬の国の王。中央と決別したのち、賛同する各国と新たに「南部連合」を結成した。



青年商人

人間界で最大の経済団体「同盟」の幹部。情勢の変化に乗り、経済面の改革を目指す。



執事



元「勇者の一行」のひとり。冬寂王の執事をつとめつつ、諜報活動なども行っている。

火竜公女



火竜大公の娘。開門都市の魔族の代表をつとめ、現在は都市を守るべく奔走している。

東の砦将

聖鍵遠征軍の元士官。開門都市の住人からなる衛門族の長として魔族会議に加わった。



女騎士

元「勇者の一行」のひとり。魔王の正体を知ったうえで彼女に協力している。



勇者

魔王とともに歩む青年。女魔法使いから魔王や勇者という存在がもつ本質を聞かされ、新たに判明した破滅の未来を回避すべく行動している。



王弟元帥

聖王国の王の弟。大陸最大の英雄といわれ、第三次聖鍵遠征軍の指揮を執っている。

百合騎士団長

大主教に仕える百合騎士団の団長。聖光教会の教義と大主教に絶対の忠誠を誓っている。



灰青王

中央諸国で若き英雄と称される「霧の国」の王。聖鍵遠征軍の前線指揮官をつとめる。

大主教

「光の精霊」を崇める聖光教会の長。「聖骸」を求めて第三次聖鍵遠征軍を起こした。



奏楽子弟

「紅の学士」の教えを受けた森歌族の少女。正体をかくして聖鍵遠征軍に同行している。

土木子弟

「紅の学士」の教えを受けた鬼呼族の青年。開門都市に強固な防壁を築いた。



妖精女王

妖精族の長



碧鋼大将

機怪族の長



蒼魔の刻印王

蒼魔族の長



鬼呼の姫巫女

鬼呼族の長



巨人伯

巨人族の長



銀虎公

獣牙族の長



紋様の長

人魔族の長



火竜大公

火竜族の長



人間界 (地上世界)



冬越王

鉄の国で開かれた南部連合首脳会議の決定を受け、現在は冬の国に戻って派兵の準備を進めているもよう。



軍人子弟

軍人子弟は南部連合首脳会議の決定を受け、魔界へ出発するため準備中。メイド妹の所在は不明だが、鉄の国で料理の修業をしていると思われる。



王弟元帥

王弟元帥は5万の分遣隊を率い、本隊と分かれて蒼魔の地へ。勇者もこれに同行している。



メイド妹

竜の山脈にて火竜大公との謁見を済ませたのち、傭兵たちを率いて移動。王弟元帥の分遣隊に先んじて蒼魔の地へ入っていた。



青年商人

湖の国にある「同盟」作戦本部に滞在。聖光教会が独占する為替事業に進出すべく、具体的な下準備に入っている。



大主教

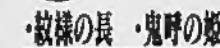
灰青王は聖鍵遠征軍の主力を率いて開門都市を攻略中。百合騎士団長は灰青王の補佐をしつつ、天幕で戦勝の報を待つ大主教の世話をしている。



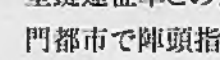
魔王



火竜公女



東の砦将



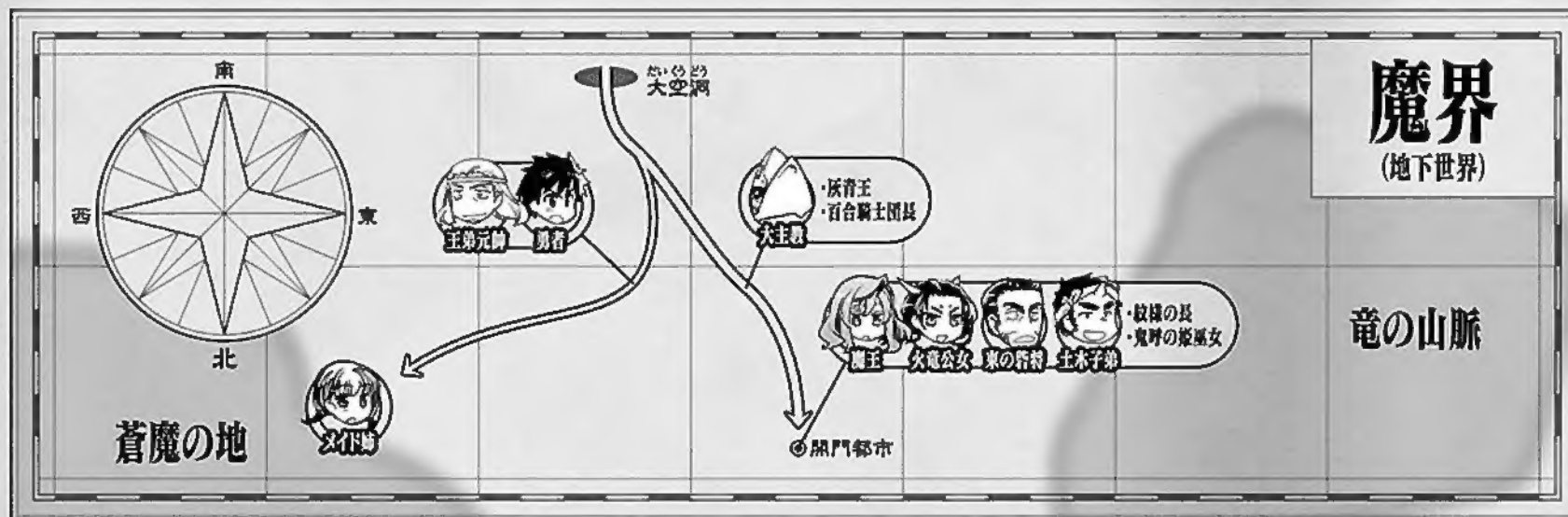
土木子弟

聖鍵遠征軍との会戦ののち、魔王は開門都市で陣頭指揮にあたっている。魔王の命により、東の砦将は防衛軍の総司令官として敵の迎撃、鬼呼の巫女は内務全般、土木子弟は防壁修理班長として施設の修復を担当することになる。また、負傷した紋様の長は療養中。火竜公女は都市の自治委員会とともに、姫巫女の補佐をしているもよう。

開門都市について

開門都市は、人間界と魔界とを繋ぐゲートにもっとも近い位置にある。かつてのゲートは誰もが気軽に通れるという性質のものではなかったが、勇者がゲートを破壊したことで「大空洞」という巨大な洞穴ができた。のちには「同盟」の商人たちの依頼で土木子弟が橋を建設しており、人間界と魔界は実質的に地続きとなっている。誰もが往来できるようになったことで、開門都市がもつ「魔界の玄関口」としての性質は、より

強くなったといえる。第三次聖鍵遠征軍が開門都市を攻略しようとしているのは、魔界へ進出するうえでの橋頭堡として、開門都市が戦略的に重要な位置にあることが大きな要因だと思われる。火砲を備えた聖鍵遠征軍に対し、兵数や装備の面で不利な魔族側はかなり苦戦している。ただ、開門都市の防壁は砲撃にも耐えられるもので、これをめぐる攻防が今後の戦局を左右するだろう。



魔界 (地下世界)

竜の山脈





なあ
じじー

なんでおれ
「術」とか
使っちゃダメ
なんだ？

「呪」は
詠唱なくて難しいぞ

詠唱なんぞ
していたら
まだるっこしいわ

最初っから
無詠唱

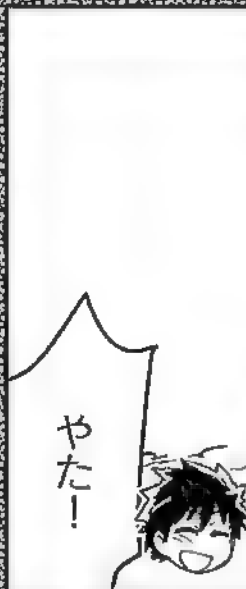
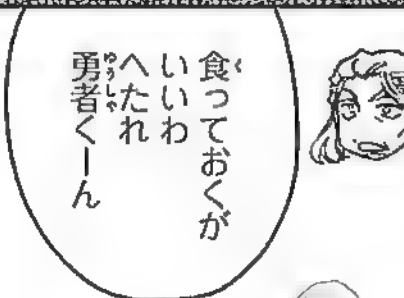
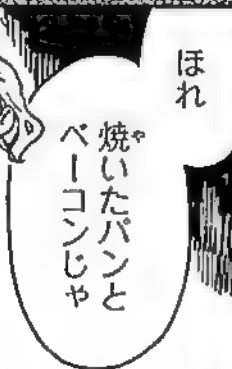
これが
大賢者と勇者の
歩む道じゃ

ぼんぼこびーの
一般人とは
違うのだよ！

ザリとほー

エー

ノノノノノ



おれも街に
行きたい

いろんなこ馳走
食べたいぞ

勇者は
街には住めぬよ

なんで？

羊の群に
狼は住めぬ
だろう？

羊を食わない
狼であっても

狼が
羊の群にいれば
羊は怯えよう？

怯えた羊は狼に
当たるだろう

羊の食える
狼だったら
羊を黙らせれば
すむが

食えない狼は
さぞや切ない
思いをする
だろうな…

難しくて
よくわかんないよ

それで
よいのだよ

そうか

もう十五の
基礎魔法は
すべて覚えたか

おれ
てんさいだもん

ならば応用じゃ

『飛行呪』と
『遅滞呪』を使って
低速飛行の訓練じゃ

これ終わったら
チチハハのところへ
行っていくか？

お前も
あそこが好き
なのだなあ

悪いか
じじー

子どもは
親を大事に
するものだぞ

あれは…
中身のない
石塚じゃよ

いいか？

行っても

よいぞ

やった



はい

私は現在
あの領地を占領
しています



あの領地を
魔王より
預かっている
機怪族は

我が軍との
平和的な
交渉の結果

領地の支配権を
我が軍に全面的に
譲渡しました

こちらは
その書面の写しに
なっています



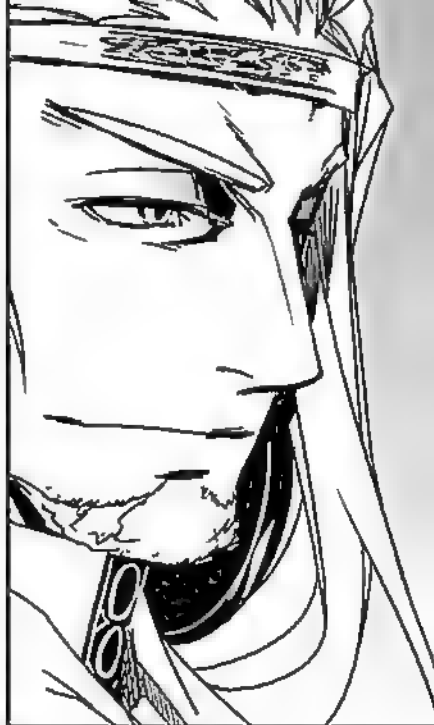
現在の
この領地の
領主として
貴軍に要請します

貴軍は現在
旧魔族領地に
すでに侵入して
います

交戦の
意図なくば
至急軍を返し

領地外に
出て行って
いただきたい



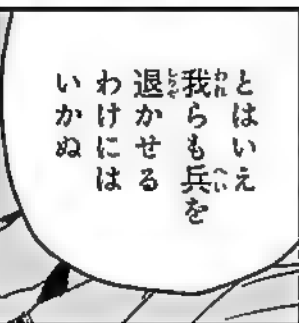


それは
知らなかった
こととはいえ
失礼な
ことをした



すべては
情報の遅れと
行き違いだ

謝罪をしよう



とはいえ
我らも兵を
退かせる
わけには
いかぬ



.....



この進軍は
聖鍵遠征軍として
大主教猊下の命令の下
行っているもの

ひいては
光の精霊の
意志

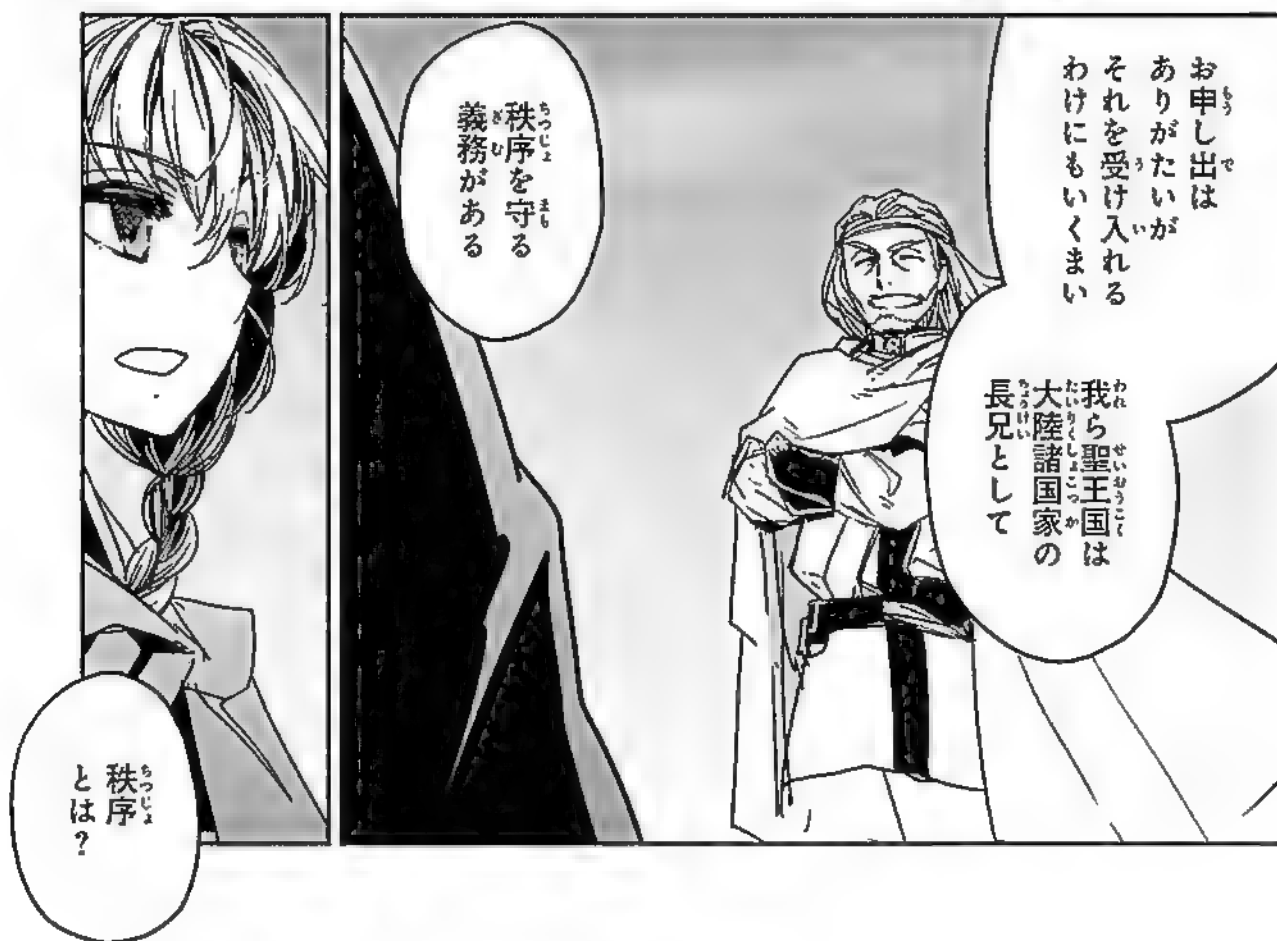


我らは
大主教から
この地を奪い

ぜひ補給線を
確立させよとの
命を受けている

この命に
背くことは
できない

光の子として





では
結論としては？

補給線は
確立せねば
ならぬ

しかし

争いはけつして
望むところ
ではない

そこで私は
提案しよう

食料 馬車
四〇〇〇台分

および硝石
馬車一〇〇〇台分の
供出をして
もらいたい

代金は
支払おう

新王国の金貨で
そうだな三〇枚で
どうだろう

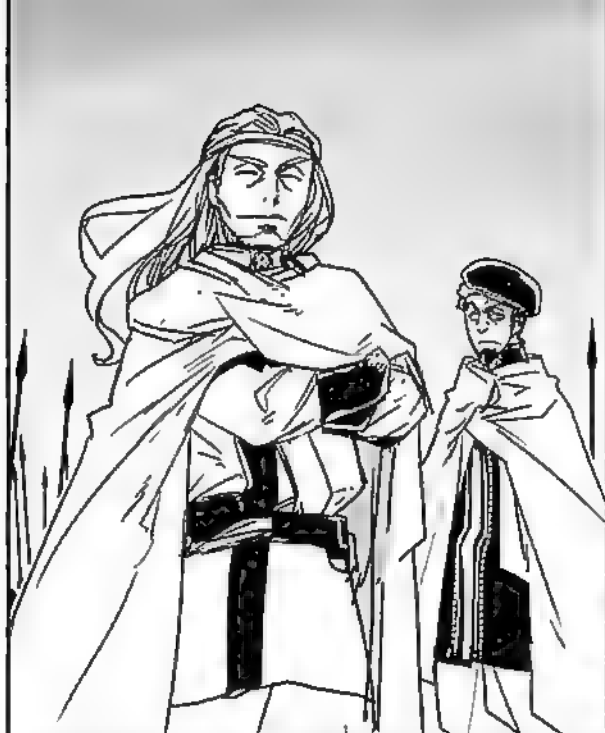
バカ言うな

そんな
はした金じゃ
武具一揃いも
買えないだろうが！

おことわりした
場合は？

両軍にとって
痛ましい事態

強制的な
補給線の確立
ということに
なるだろう







いつまでも
そのままになんて
させません



まあ
俺戦闘しか
できないしな



勇者様……
たくさん……
血を流され
ましたか？



いいんです

実力行使で
意を通します

当主様だって
勇者様だって
そうしてきまし
たもんね



どうい
うことだ？



まだ内緒です



内緒です

メイド姉は
奴を退かせて
どうするつもり
なんだ？







しかし

これは灰青王の手落ちというよりも

カノーネの連続砲撃を一週間にわたりしのいたという

開門都市の魔族軍の手柄と褒むべきかな



…苦戦でしようか？

魔族軍が開門都市内部に撤退してからすでに一週間

こちらの火薬と食料が徐々に切迫してきたようだ



この目で見ていないこともあつて信じがたいが…

いったいあのカノーネの砲撃を

どのような防壁とどのような指揮をもって

一週間もの間しのぐことができるのかとな



あの学士という娘の正体

勇者から語ってもらおう



…このままでは埒があかぬな

仕方あるまい勇者を呼べ



こうして我らの足止めをしているということも

あの学士の目的のひとつなのだろうが…



あの少女は
いったい何者
なのだ？



あの娘が

…紅の学士か

南部農法
改革の旗手

万能の天才

南部の光と
呼ばれる
紅の学士ですか



…なるほどな

どうりで…

—勇者は
どう思うのだ？

何を？

この戦に
ついてだ



俺の本音は
最初から
ひとつだ

この世界を
護ること



そろそろ
聞かせてもらおう
勇者の本音を



我ら人間の
世界をか

では

人間同士の
軍の衝突は
どう考えて
いるのだ？

南部連合は
我らが遠征軍に
刃向かうという

勇者はどちらの
味方として
ふるまうのだ



ケツの穴の
ちいせーことを
言うなよ

この世界つつたら
この世界だよ

歩いて行ける
たったひとつの
この世界に

人間も魔族も
あるものか

ましてや人間同士の
小競り合いの正義を
決めるだなんて

勇者や精霊の
名前を借りて
することかよ



では

勇者は今
眼前にある
紅の学士と
我らとの争いも

魔族と
聖鍵遠征軍の
争いも

どちらも等しく
嫌悪すると

それで
よいのだな？

そうだよ



どうあっても？

どうあっても



王弟元帥こそ
止める気は
ないのか？

ないな――



どちらも人間で
どちらも対等
だから

勇者である
俺は介入
するなと

そういうこと
だよな？

そうだ

で俺が
介入しなかつた
場合

自由な意志を
持つ両者の
激闘をもって

事の是非を
つけようと

我らが絶対善
絶対正義である
などとは言わぬよ

しかし

この世界においては
自らの信じることを
貫くためには

力が必要なの
ときもあるのだ

それがもつとも
苛烈に試されるのが
戦場であり

その戦場に
立った以上
彼女も戦士だ

そりやおおせ
ごもつともだ

ならば



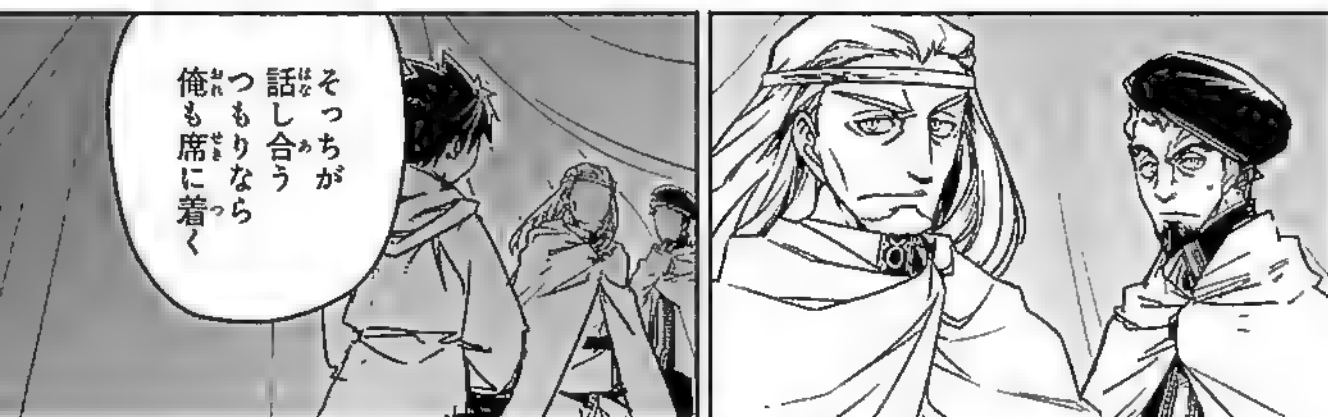
「ならば」
そのまったく同じ
理屈をもって

勇者は勇者個人の
自由な意志と信条を
守りとおすために

戦場で力を
示そうとする
輩…

つまり
攻撃を
はじめた軍を

暴力で
排除する



そっちが
話し合う
つもりなら
俺も席に着く



でも
もし暴力で
正義を押しとおす
つもりなら

俺だって
そうするよ

聖鍵遠征軍の
残り半分はさ

暴力を解禁
しちゃってるんだ

つまりさ
教会はもう俺に
ケンカを売ってるんだよ



ならばこちらも
言わせてもらおうが

こちらには数万の
マスケットが
あるのだ



勇者の戦闘能力が
どれほどであろうと

たったひとり
軍も歴史も
ねじ曲げられると
考えているならば

それは思い上がりも
甚だしいと言わせて
もらわねばならん



被害は
出るだろうが
我らは勝つ

その自信が
私にはある

つたりまえだ

そんな
思い上がりは
しちやいない



ただどな
王弟元帥

俺は暴力で
破壊しかできない
勇者なんだぞ

それだけしか
できない男が

どれだけ
その無意味さを
呪ったか
わかるのか

暴力で
解決するなら

こっちはハナから
ガマンなんかしちや
いないんだよ

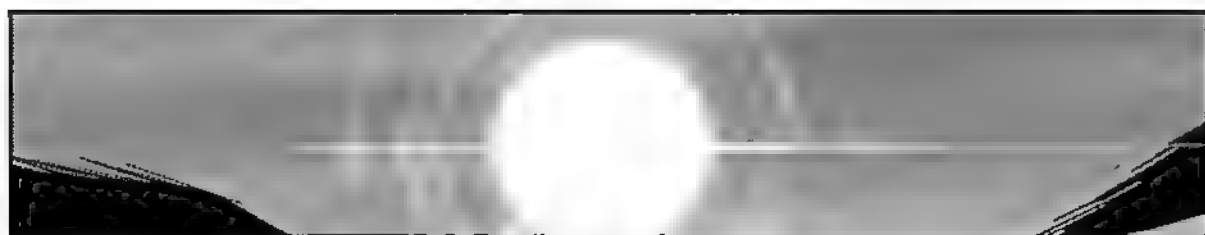
…王弟元帥
おうていげんすい

大陸最大の
英雄
たいりくさいだい
えいゆう

あんたになら
流れる血を減らすこと
だってできるはずだ
なぐるち
だつてでできるはずだ

お前もあいつと
同じように
まへ
おなじように

『あの丘の向こう』
について考えろよ
あの丘の向こう
について考えろよ





これで
終わりでは
あるまい？

学士殿

勝ち逃げは
許さないと

無論だ

もちろん
貴女が許しを
請うなら
別だが？

いいえ

元帥様

所用を
済ませたのち
私も開門都市に
向かいますよう

それは
ぜひ歓迎しないと
いけないな

勇者とふたりで
我と遠征軍に
食らいついて
くるがよい

いいえ



それから
訂正します

元帥様

なにをだ？

旅の学士
と名乗った
ことです

「紅の学士」は
やはり私の
名乗るべき肩書
ではありません

ですから
私は王弟元帥様と
聖王国の方々

そして勇者様と
私の仲間の前で

私自身として
名乗りましょう

—？

私は冬の国に
生まれた

貧しくて
みすぼらしい
農奴の娘

農奴
だって！

バカな！

そして
また

ただ人間である
ことのみを望む
無力なひとりの
娘です



しかし

今日

今
このときより
名乗りましょう



私は
今ひとりの
勇者

この世界を
救おうと決意する

あの細い道を歩み始めた
大勢のうちのひとりです

戦争における補給

戦争は大量の物資を消費する。
戦い続けるには、必要な物資を
確実に前線へ届けるための、
補給線の確保が必須となる。



王弟元帥は岩魔族の領地を占領して
物資の供給地とし、開門都市への補給線を
確立しようと考えていた。

補給手段の充実により戦争規模が拡大

戦争ではさまざまな物資が消費される。兵士が戦い続けるには食料が欠かせないし、戦場で破損した武器は補充しなければならぬ。負傷した兵士を治療する医薬品も用意する必要がある、これらを輸送する軍馬の食料、もしくは車両の燃料も欠かせない。物資がなくなれば、不安が広がって兵士たちの士気も低下する。補給物資の確保は、つねに戦争につきまとう問題だった。

ヨーロッパでは、ある程度の補給体制を整えていたローマ帝国のような例をのぞけば、16世紀ごろまで組織的な補給体制は整っていなかった。大抵は出発時に持参した物資がすべてで、あとは行軍中や戦地での現地調達、つまり近隣の街や村で購入したり、略奪によって物資を補っていた。攻城戦のような長期戦が予想さ

れる場合、川沿いに建設した倉庫に船で物資を運び込むこともあったが、物資の不足から戦闘が終了することもしばしばだった。補給の重要性が広く認識されるのは、戦場の主役が火器にかわった17世紀から18世紀にかけてのこと。食料は近隣の都市から得られたとしても、銃や大砲の弾薬は簡単に入手できないからだ。フランスのナポレオンがヨーロッパを席卷したのも、自身の戦略を実現させるために補給を組織化したことが大きい。ただ、当時の輸送手段は人力や馬車がおもで、とくに河川から離れた場所へ輸送できる物資には限界があり、現地調達も併用されていた。状況が大きく改善されたのは、蒸気機関の登場で実用化された鉄道の軍事利用と、通信技術の発達による。のちには自動車も登場し、従来では考えられないほどの物資をより速く、より遠くへ輸送できるようになったが、これは同時に戦争の規模を拡大させることになった。

こうした状況下では、前線でいくら敵を倒しても兵士や物資が補充されてしまう。人員や物資を供給する補給線をいかに確保し、いかに叩くかが鍵になるが、双方とも敵を迂回させないために戦力を配置するので、戦線は拡大する一方となる。

最終的に戦争は国家同士との総力戦になった。戦力や国力が大きく違わない限り、損失のほ



メイド姉の計略や勇者の登場、状況の変化により、
王弟元帥は計画を大きく下回る物資しか得られなかった。

遠き日



それはない
でしょうな

何かの罠か
策だろうか



はい

王弟元帥が
本隊から
離れている？

それは
本当か



私が知るかぎり
王弟元帥は
そのような性格の
子ですよ

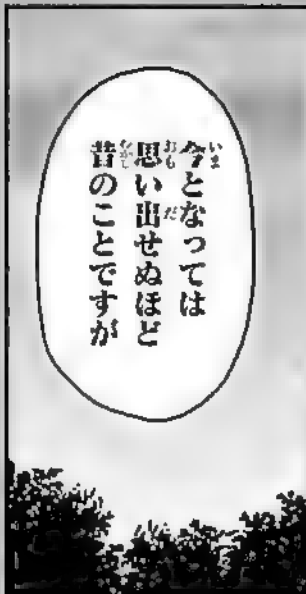
昔から
変わりません

相手より
大軍を用意し
兵站を整え
勝つべくして勝つ



策を講じる
というのは

基本的に
弱者が行うことです



今となつては
思い出せぬほど
昔のことですが



…詳しいの
ですね

…過去に面識が
あるのか？



王弟元帥が
本軍を離れたの
ならば

軍内部に軋みも
あるのでしょうか



まさに
英雄の相
ですわ

ええ

ほほう

これは
賢そうな！



勇者様は
平和と繁栄の
象徴

この世界の
守護者なんです
からね

この齢で
もうすでに
二十四音呪すべてを
使いこなすとか

そのうえ
剣技においては

もはや大國の
騎士団長クラスにも
達するのでしょうか？

まおう
魔王勇者
第四十八話





第四十八話 Archenemy and Hero
48th chapter

明日のために!



どうなのですか
素質は？

まさに
勇者です

歴代の中でも
ことに優れた
素質を持ち

心根の正しい
若者になるでしょう

しかし

それには時間が必要ですね

時間は
ないのです

賢者殿も
お聞きになられた
でしょう？

教会付きの
法術官も
高名な占術士も

こぞって
告げるのを

新たなる魔王が
現れたのです

一刻も早く勇者を
旅立たせねば





やめろよ！

なんだよ
兵士のくせに
抵抗するの
か

俺は貴族だぞ

違う

おれは
勇者だもん

給料がいら
ない
便利な兵士
なんだろ

はさまや
きつてたぞ

…違うもん

イヤァ
なわ

ふーん
そうなんだあ

着てる服も
ぼろぼろ
だもんねえ

カチ
カチ

ここ
片付けておけよ

ワッ

全然
言い返せないの
弱虫だ

つまんないの

勇者なんて
ただの田舎者ねー



ぽんぽんぴーの
ぽんぽんぴー



バカは相手に
しない

じいちゃんも
言ってたもんね

早く帰ろう

森で修行してた
ほうが楽しいや

貴族の子どもって
うるさいし
偉そうだし



ええ
先ほどお目にかかりましたわ

どうでした？

勇者とやらは

あ！

さっきの綺麗な
お姉さんだ！



気持ち悪い

見ただけで
ぞつとするわ



自分を一瞬にして
氷漬けにでも
消し炭にでも
できるような怪物が
自分と同じ
部屋にいるのよ

自分の命も尊厳も
そいつのいいなり
指先ひとつ

幼い姿をしていても
そんな存在は怪物よ



気にしすぎ
ですよ

あれは
王の使う強大な
軍力のひとつに
すぎないんですから

でも
気持ちには
わかりますわ

にこにこと
人間のよう
に喋って…

私はダメ

同じ部屋に
いただけで気が
変になりそう



…ぼんぼこぴーの

…ぼんぼこぴー

一般人なんて
ぼんぼこぴー…♪

おろ？

あ！

じじー

もう話は
終わったのか？
帰るか？

ふむ

そうじゃの

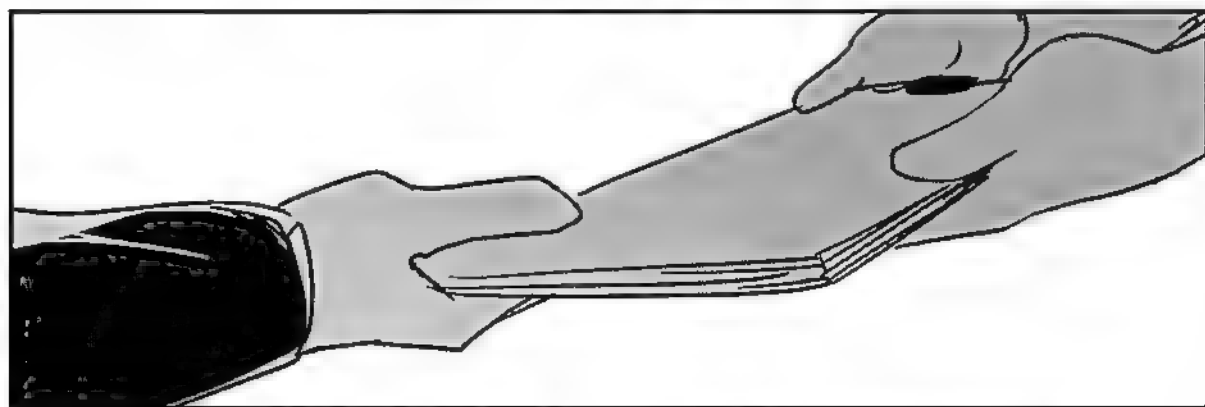
疲れたわい

やあやあ

おれもだよー

やっぱ
森がいいね







…そして

だから
そのために

実は聖光教会の
財政は非常に
切迫しており

もはや
為替事業の破綻は
目前である

…それが
嘘

なんですか？

嘘ですが

この嘘は
「ただの嘘」では
ないわけです

へ？
なんか違うん
ですかあ？

為替証とは
商人が教会に
お金を預けて
発行してもらう

手数料としては
十分の一は払わねば
なりませんけれどね

たとえば

金貨一〇〇枚を
預ければ
「金貨九〇枚を
払ってもらえる
為替証」を
発行してもらえる

金は目減り
しますが
この為替証は

基本的に
どの教会支部でも
現金化できる
わけです

しかし

発行された為替証
すべてが即座に
現金化される
わけではない

為替は金貨を
持ち運ぶよりも
遥かに安全に
持ち歩くことが
できる

そのまま
取引に使う
こともあります

はい

ドキドキしました
けど無事に
運べました

つまり

この世界には
「現金化されて
いない為替証」が

かなりの数に
上って存在する
はずです

視点を
変えれば

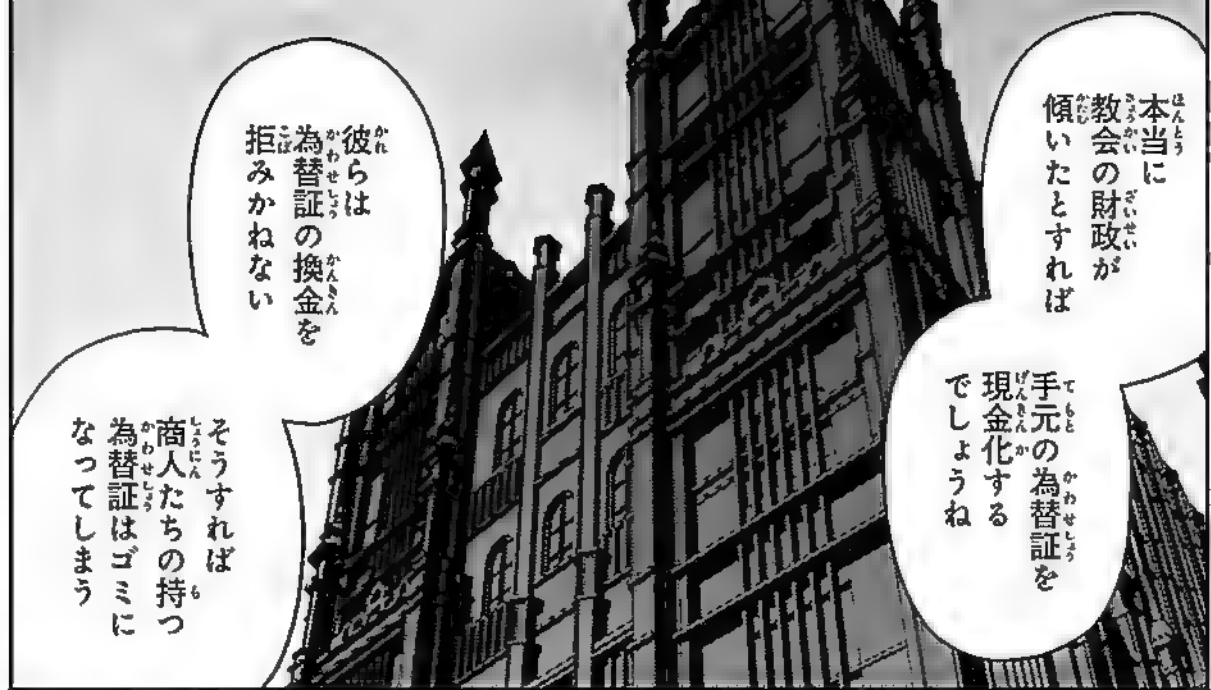
これは教会が
商人たちから

金を借りている
ともいえる
でしょう

商人たちが一斉に
為替の現金化を
始めれば

教会は
現金を支払う
義務がある

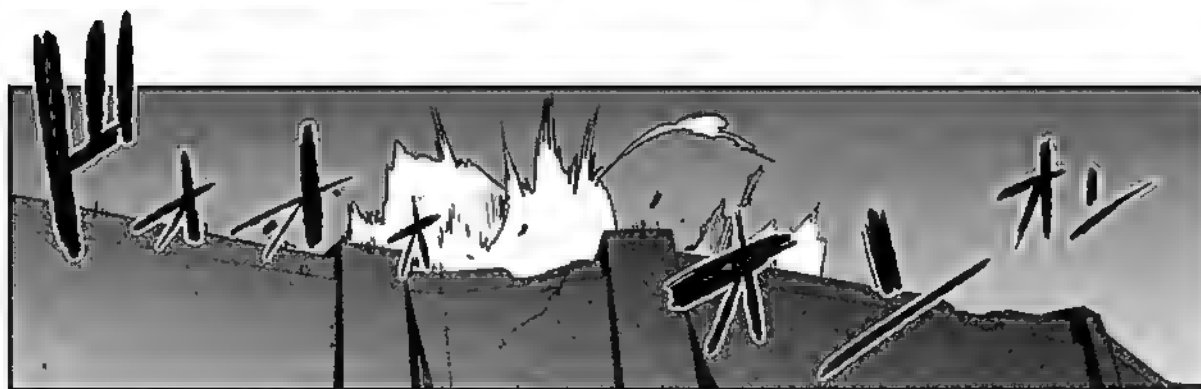
そしてもし
教会の財政が
危険だとわかれば
どうします？







そのタイムラグが
今回の勝敗を
決めます





さっさと
慣れろ

状況はどうだ

師匠が
魔王だなんて
いまだに
なにがなにやら



こんなところに…

魔王様!?

不足している
ものはないか?

どうだ?



正直
そろそろ
限界です

いつ破れても
おかしくない場所が
いくつもあります

疲労が浸透して
基幹部分にもヒビが
入っています

強度に余裕が
あるところでも
一週間が限度
…ですね



魔王殿

このままでは
この都市は…

沈んだ顔を
するな

まだ決着が
ついたわけ
ではない

勝負は
これからだ

しかし

いずれは
時間の問題で…



人間たちの軍の
なんと数多い
こと…

そして
その攻勢の
途切れぬこと

…ああ

今なら
わかります

我らは戦力で
負けるわけでは
ないのですね



この戦を今
支配しているのは
物資の多寡

我らが閉じこもる
この都市の食糧には
まだ余裕あれど

城壁を作り
補修する資材は
もはや底を
尽きかけている…



一方

人間の
軍の攻勢は
留まりたるを
知らず

その物資には
限りがない

商人殿の
言っていた言葉が
胸に染み入る

戦は戦場のみで
行われている
わけではないと

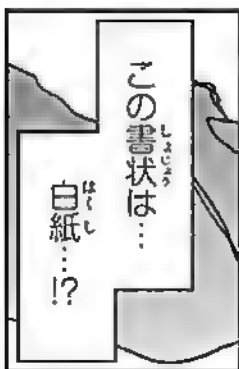


すまぬが
これを火竜大公に
渡してきては
くれぬか？

はい



火竜公女！
……



この書状は…

白紙…！？



おおおお

援軍の
要請だ

それは…？



魔界は広い

この都市を
救うだけの兵力は
いくらでも
残っている

我らは
それまでの時間
を稼げばよい

さあ！
暗い顔を
するな！

ここは自由の街
開門都市では
ないか！



おおおお

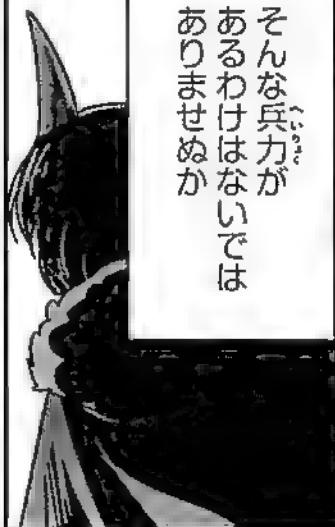
この街を
守りきるのだ！
明日のために！

おおおお



おはよう

そんな兵力があるわけはないではありませんか



たとえあつたにしても…

半日で三万の屍を築いたあのマスケットの前に

どのような長が兵を送ることができるでしょう

魔王殿の狙いはいざとなったときの保険…開門都市が落ちたとしても

その傷跡を魔界全土に広げぬよう

次の防御拠点としてお父様の火焰山脈を用いよと

それを言葉にせぬための白紙の書状

このままではこの都市は…

しかし妾に何ができようか

この都市のために魔王殿をかばって散った銀虎公のために

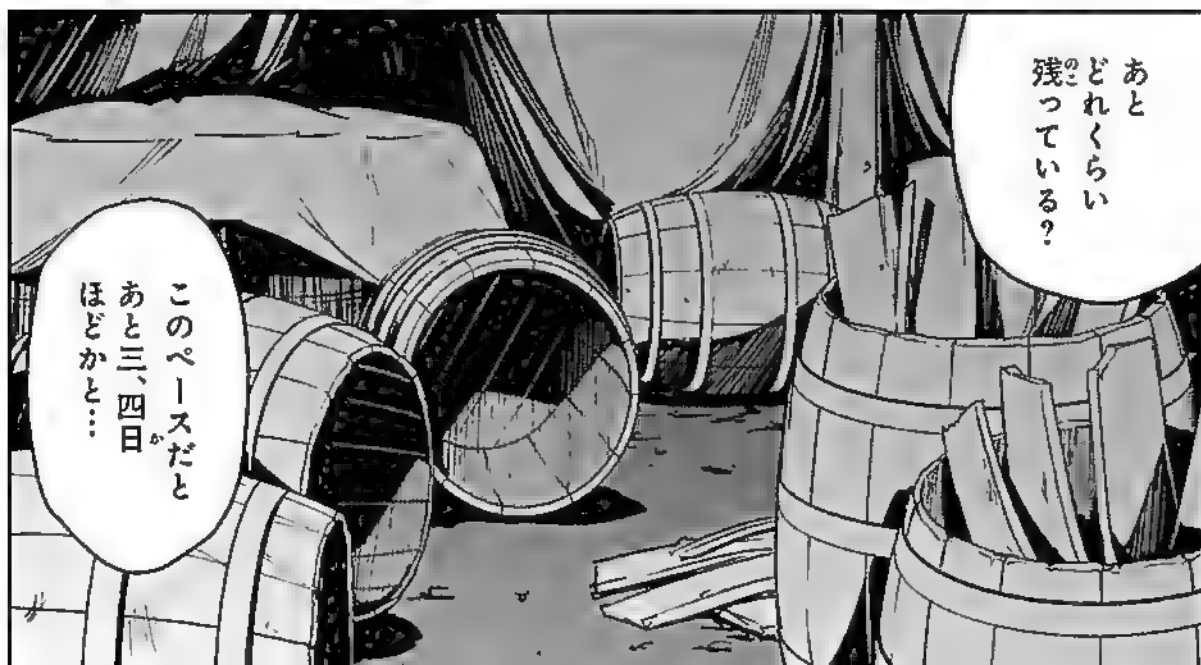
—この都市に命をかける数多の英傑のために妾に何が…

…なにか困ってる？

貴女は…！











…なに？

百合騎士団長が…



じい…



灰青王閣下！
かいせいおうかくか

お耳に入れて
おきたいことが…

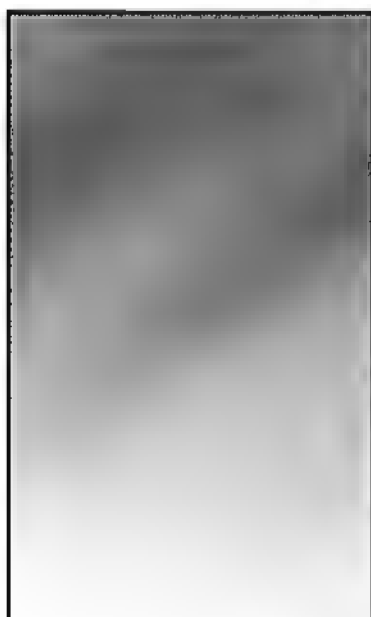


集会…？



夜な夜な
銃兵どもを
大量に集めて

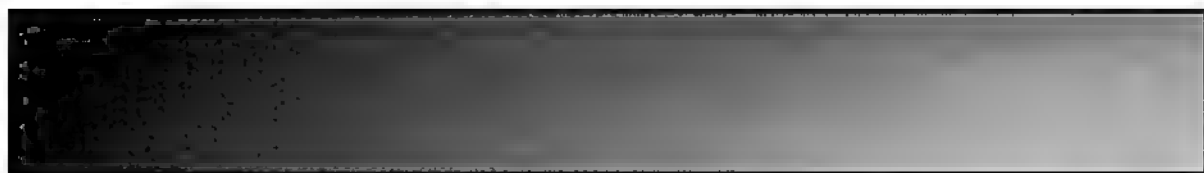
集会とも
説教会とも
つかないような
ことをしている
ようでした



いかが
いたしましょう

…放っておけ

いずれ俺が
ケリをつける





敬虔なる
信徒の皆様

ようこそ
いらつしやいました

精霊様はあなたたち
選ばれし信徒に
恵みをくださいます



精霊様の宝は
開門都市にあります

邪悪な魔族共が
その宝を奪い
隠しているのです

今こそあの都市を
落とさなければ
なりません



そのためには
光の信徒の
心魂を捧げた奉仕が
必要なのです

精霊は
欲し給う

精霊は
欲し給う

精霊は
欲し給う

精霊の御手に
その身を委ねるのです

精霊は
欲し給う

精霊は
欲し給う



光の園へ

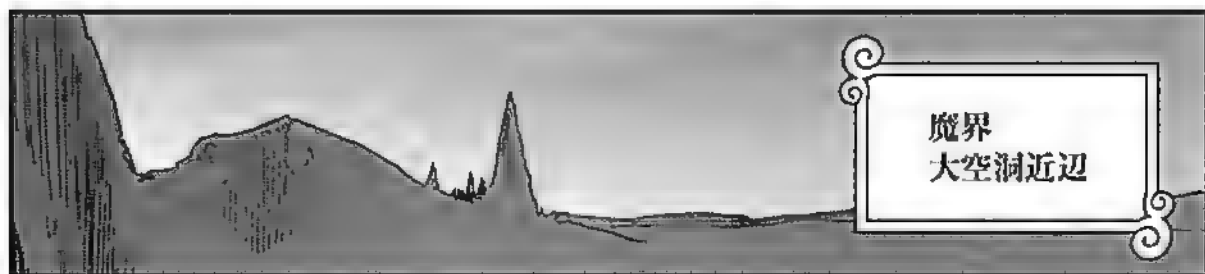
あの都市の住民に
恐怖を刻み込んで
やるのだ



精霊は
欲し給う

……

ひひひひひ



魔界
大空洞近辺



報告します
最後方部隊

大空洞を
抜けるためには
あと一日半は
かかる模様

よし

先遣隊を
先行させるよう
指示を出すでござる









聖国王

うむ

以後
お見知りおきを

聖国王閣下



さて…
商人殿

経済と
商業の立場から
この王国への提案が
あるそうだな？



わしが
国務大臣だ

私はこの聖王国の
王室付きを務める
高司祭



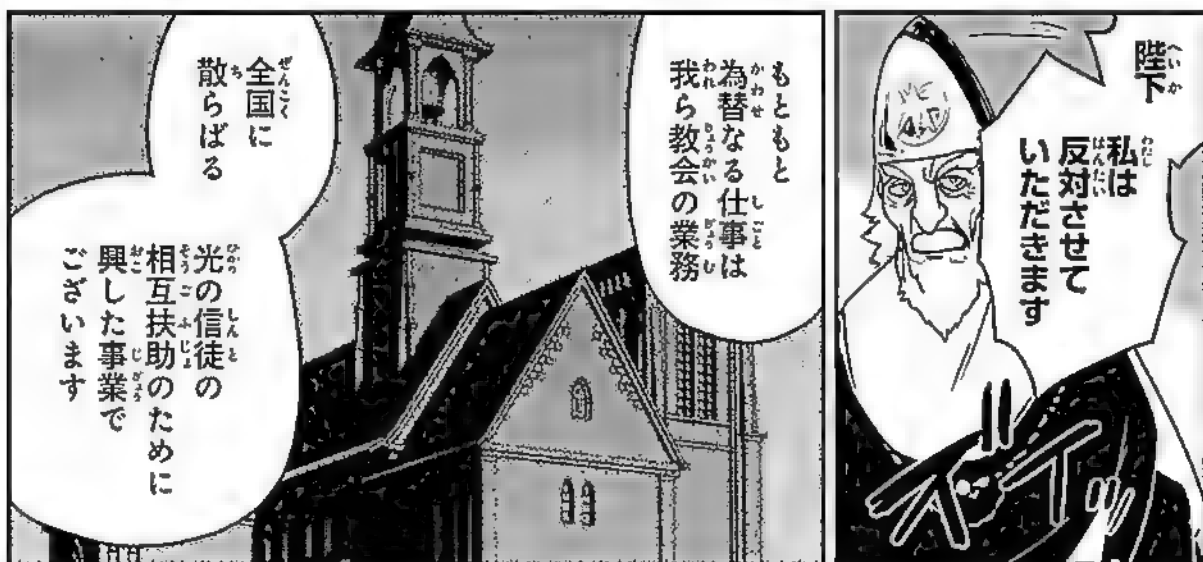
まずはお願いが
ございまして…

このたび
この「同盟」の
商館の一部で
為替を取り扱う
業務をはじめまして

おかげさまで
好評をいただいて
おります

こちらの
為替業務に
関する許可

及び 勅書を
いただけた
ならばありがたく
思います



陛下

私は
反対させて
いただきます

もともと
為替なる仕事は
我ら教会の業務

全国に
散らばる

光の信徒の
相互扶助のために
興した事業で
ございます



そもそも
金銭を扱うのは
高度な信用が必要

お金を
払う約束
貸す約束

それを
実行するだけの
信用がなければ
成り立ちませぬ

新興の商業組合に
このような仕事を
許可すること自体が
間違いなのです

恐れながら
國務大臣閣下

この国の法にて
為替業務の許可が
必要だとの項目は
ございましたか？

…それは

…ないようだが

そもそも
そのような法が
なかったのは

我々教会以外は
その任をまっとう
できようはずもない

それが
自明だった
ゆえのこと

すぐさま
法を改正し……

高司祭殿

実は
我々「同盟」でも
教会の為替を
利用していましたね

為替証を現金に
してもらおうと思い
西海岸の自由都市に
行ったのですが

現金化を
断られました

困った私は
その隣の都市にも
行ったのですが

そこでも
断られました

じつは五か所で
断られています

……

私^{わたくし}だけでは
ありません

西海岸^{にしかいがん}の
商人^{しょうじん}は現在^{げんざい}
大混乱^{だいこんらん}

いえ
大恐慌^{だいこうかう}です

そのような
事実^{じじつ}はあるのか

高司祭^{こうしさい}

それは…

一時的^{いちじてき}な…

実は本日^{じつはほんじつ}
陛下^{へいか}のもとに
伺^{うかが}いましたのは

ひとつには
これも理由^{りゆう}でして

西海岸^{にしかいがん}を
中心^{しんしん}とする商人^{しょうじん}
五〇〇人^{ごひゃくにん}からの
嘆願書^{たんがんしょ}でございます

教会^{きょうかい}に
預^{あづか}けた金^{かね}が
返^{かえ}ってこない
と

証書^{しょうしょ}は必ず
現金化^{げんきんか}する

「いずれ」
—ですか？

ふざけないで
いただきたい

証書^{しょうしょ}を現金化^{げんきんか}できず
滞^{とど}った取引^{とりひき}…
時間^{じかん}と人員^{じんいん}

その損害^{そんがい}を
いかにお考え^{かんが}えか？

教会の信用？

そのような物が
あるのであれば

その教会に
傷つけられた
我ら商人の信用は

いかがすれば
よいのですか？

すべての
損害を賠償
しよう

信用が金で
買えると？

では私たちも
金で買いましょう

先ほど
おっしゃっていた
教会の信用は

金貨でいくらに
なるのです？

そのような物が
売れるわけが
なかるう？

恥を知れ
この背教者め！

そこで
矛を収めよ

失礼
いたしました

…しかし
どうした
ものか

国王陛下は
司法の長でも
あります

ここは
国王陛下の判断を
あおぐのが早道かと
存じます



そうだな

ふーむ

…高司祭よ

先ほど損害分は
すべて払うと
言っておったな

はい

さらに
西海岸の
商人の信用を

傷つけたことも
認めるな？

ええ

認めましょう



損害
すべてのほかに

その信用を
あがなうための
賠償金の支払いが
妥当だろう

どの程度を
支払えばよい？

高司祭

金貨一〇万枚で
よろしいでしょう

すぎた額だ



うむ

そちはどう思う
青年商人

私のみの
信用であれば
多額に過ぎる
額です

さすが聖光協会の
司祭様の見識
感服いたしました

しよせん金か

卑しい男よ

チッ



なぜ
そのような数字が
出てくるのだ!?

まず
証書の額面
ですが

金貨にして
およそ
七〇〇万枚

現在の
木炭の価格を
ご存じでしょうか?

中央と南部の
関税と輸送費で
仕入れ額のおおよそ十六倍の
価格になります

すべてが
このような消費に
回されるわけでは
ありませんので

七〇〇万枚に
八をかけた
五六〇〇万枚

これに信用毀損の
賠償金五〇%を
加えて

金貨
八四〇〇万枚と
なります

もちろん
金貨八四〇〇万枚を
本日中にお支払い
いただけないとあらば

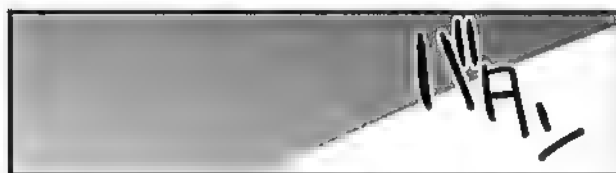
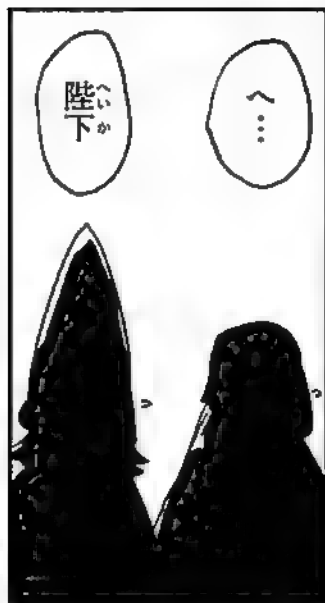
それに対する
損害も発生
しますゆえ

先ほどの計算を
もう一度繰り返す
ことになりました

今度は金貨
十億八〇〇万枚に
なりますね

さらに遅滞した
場合には…

もうよいッ!





さて

商人殿の
手腕はわかった

勅書

と言っていたな

それがなんであれ
書かなくては
ならないだろうな

借金のカタだ



高司祭は本日中に
なんとしてでも
金貨八四〇〇万枚を
支払うつもりなのだ

聖王都の
教会すべてと
我が王宮の
国庫を空にすれば
なんとか
払える額だろう

しかし
私の許可なく
国庫に手を出せば
死罪なのだ

あのふたりを救うためには
そなたからの条件を飲んで
弁済するしかない



ふたりには
よい薬さ

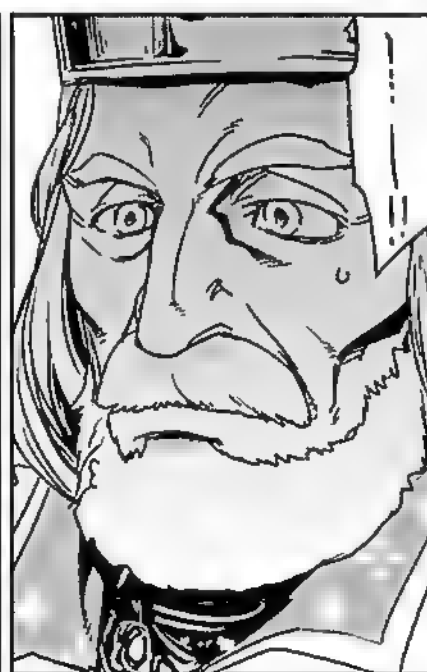
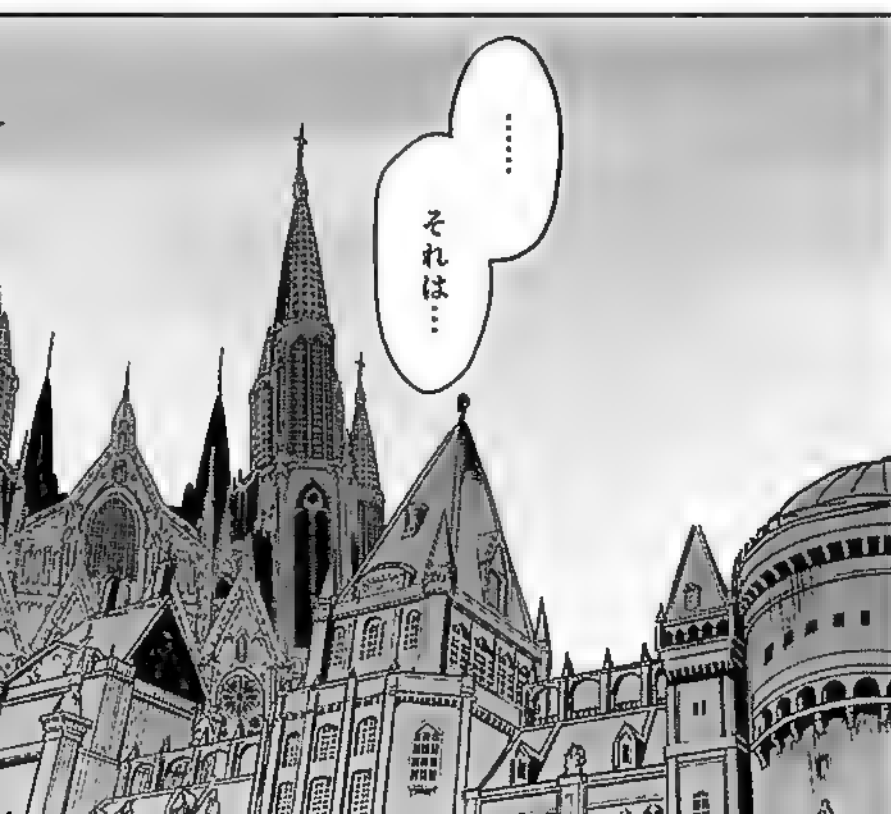
とはいえ

薬効が強すぎて
あのふたりが
首を吊っても
しかたがない



……これは
ご慧眼
恐れ入ります

この程度ではな
できる弟を持つと
いろいろ考えるものさ



聖光教会との
決別を求めているわけでは
ありません

王家の皆様が
伝統ある教会に
帰依しているのも
理解しております

そもそもは同じ
信仰から生まれた
ふたつの教会が

陛下の両翼として
城下に揃うだけのこと

両立平行で
よいではありませんか

…足元を見る
などという話
ではないな

それが狙いか
商人殿

それに
ここだけの話

本日持参した
為替証は
我が同盟と
同盟に友好的な
商人のもののみ

「為替の不履行で
被った被害は
十二倍の額で
教会が弁償する」

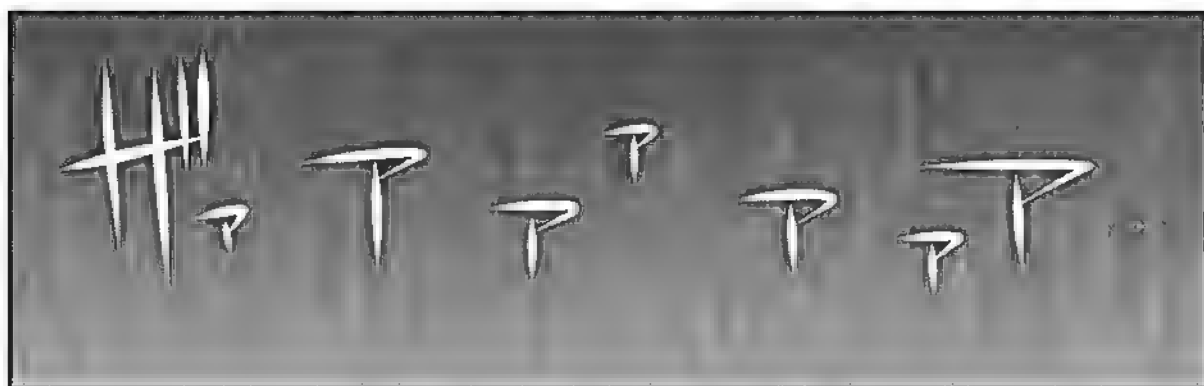
この情報が
流出した途端

額の大小
個人商家国
問わず

さきほどの五〇倍では
きかない請求が
押し寄せることに
なるでしょう









商いの道を
歩むのならば

「なんでも」なんて
手形を出しては
いけませんよ

やはり妾には
商いの道は無理です

……

商人殿と
世界を渡るのは
楽しかった

とても
楽しかった

狭い世界で
生きてきた妾には
まぶしかったので
あります

しかし

妾は
竜の公女

やはり輩は
裏切れませぬ

それに妾は
あの都市が
愛おしい

人と魔族がすれ違う
あの都市の行く末を
見届けたい

商人殿は取引相手としての妾を認めてくれた

このように情にすがり取り乱し

弱い妾はきつと軽蔑される

一度膝を屈した妾を商人殿はけっして

けっして対等の相手とはもはや見てくれなくなるでしょう

それが妾には切ない

でも妾に支払えるものは多くなく

商人殿に軽蔑されることくらいしか…

聞きたくありません

そうです
ありましょう…

な…



魔界は
全土征服はされない

いくら聖鍵遠征軍が
大軍でも不可能だ

たとえ魔界が
都市の五つや十
失ったところで

その市場性と
価値は揺らぐ
ことはない



これから
聖王国を中心とした
聖光教会文化圏と

南部連合と

それが
私と『同盟』の
予測にして野望

そして魔界

三つの経済圏が
複雑にからみあつた
新しい世界が
聞かれる

その世界でなら
三つの文化圏の間を
自由に商取引する
ことのできる商人は

今の何十倍も
飛躍的に力を広げる
ことができる



なぜ魔王殿は
開門都市を
手放さなかったの
ですか？

わかりませぬ

……ただ
未来のためと

魔族自身の誇りと
人間族のため
でもあると

それを
魔王殿が？

我々のあの都市に
対する価値判断が
間違っていたのか？

あの都市には
我々が考えていた
以上の軍事的

経済的な価値が
あると？

……いやそれは
考えづらいだろう



あの都市を失って
何が失われる

なぜ
あの都市を
失うことが
できないのだ…



だとすれば
文化的
宗教的…

あるいは
象徴的な意味での
価値があるのか？



…
なぜ 魔王は
このタイミングで
あの都市に戻り
死守しようとするのか？

「人間族のため
でもある—」

とは？





磨きぬいた
葡萄酒の
ように!?



魔王は!

魔王殿の瞳は
紅いのですか!?

信用の喪失から起こる デフォルト

信用のうえに成り立っている
金融業務は、ひとたび信用が
崩れた際の立て直しが難しい
分野でもある。



青年商人が為替業務の許可を求めたのは、
「信用が必要」という言葉を引き出すためだったのかもしれない。

風聞からでも起こりうる「デフォルト」

「デフォルト」という言葉にはいくつかの使われ方があるが、今回扱うのは日本語で「債務不履行」とも訳される金融用語としてのものだ。破綻などの理由により、債券の発行者が元本や利払いの支払いを停止したり、融資されたお金の返済が滞ることを指している。

もともと身近な金融機関としては銀行が挙げられる。銀行は多数の預金者から集めた小口の預金を資金とし、これをまとまった額で企業などに貸しつけて、貸しつけた先から得られる利子と預金者に支払う利子の差額を利益としている。銀行に預金するといふ行為は、銀行を通じて誰かに融資していることにほかならない。銀行は融資した相手に対する債権者であると同時に、預金者に対

する債務者でもあるわけだ。

また、貸しつけたお金が再度銀行に預金されれば、銀行はそれをさらにほかへ貸しつけることで、預金額を徐々に増やしていく。これは信用創造と呼ばれるもので、期日を迎えて貸し借りが精算されるまで、市場には実際の現金以上の額が供給されることになり、経済が活性化される効果がある。

ただ、これらは借り手側が滞りなく契約を履行することを前提としている。銀行の複数の融資先に信用が失われる事態が発生した場合、預金者が安全性に不安を感じて預金を引き出し始めることになる。しかし、銀行側は「大量の引き出しが集中することはない」ことを前提としており、常に預金額と同等の現金を用意しているわけではない。このため、銀行が見合った資金調達をできない場合は、破綻してデフォルトに陥ってしまうのだ。

デフォルトの怖いところは、実際には経営が健全にもかかわらず、ただの噂で発生する可能性がある点だ。「取り付け騒ぎ」と呼ばれるもので、実際に日本でも何度か起きている。

「まおゆう」で青年商人が高司祭にちらつかせたのも、この風聞による取り付け騒ぎの可能性だ。為替業務は信用で成り立っていること、信用は一度失うと取り戻しにくいことを利用して、聖王国や聖光教会に要求を通すための交渉カードとしたわけだ。



青年商人は教会の業務に必要な「教会への信用」を人質にとることで、交渉を有利に進んだといえる。

もうひとり



まおゆう
魔王勇者
第四十九話





星とは
なんだろう

…うーん

不思議だ

そうかなあ？

…年を
経るごとに
不思議が増える



……

じじーは
最近静かだ

…うむ



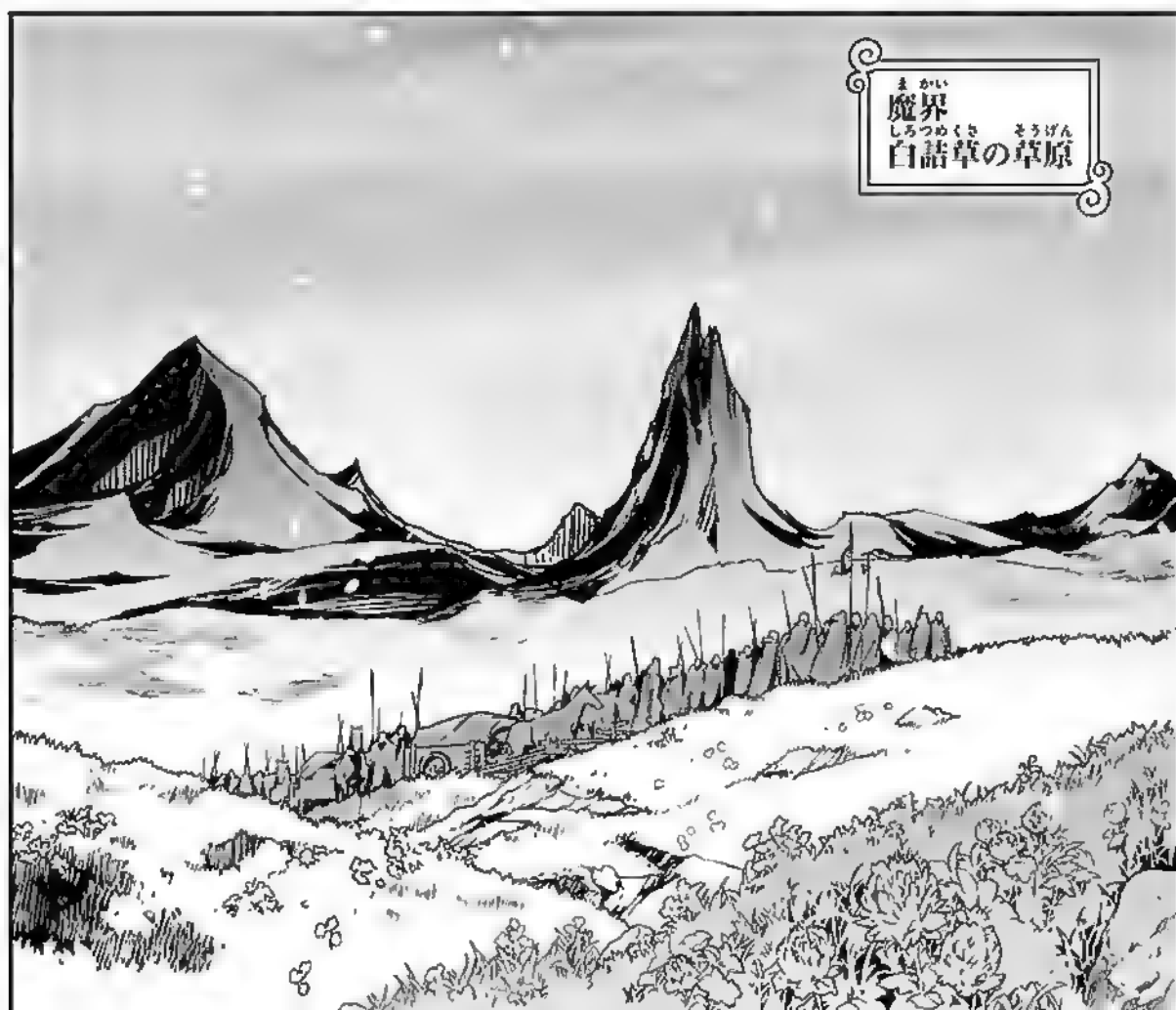
林檎

食べないのか?

第四十九話

Archenemy and Hero
49th chapter

期待せよ、いつかはじまるお前の物語に



ま かい
魔界
しろつめくさ とうげん
白話草の草原



ここらは
綺麗だなあ

魔界は大半は
荒れ果ててる
けれど

こういう場所も
たまにあるから
侮れねえなー



勇者様は
魔界の地理に
詳しいのですね

旅暮らしは
長いな

大概が
冒険と戦い
だったけど

なんだかんだで
地理だけは
詳しくなったよ



火焔山脈まで
送ればいいか？

ええ

火竜大公様に
報告しませんが

あのメイさんか...

怖かったら？

いえ
親切な方
でしたよ

アミン





昔
おっしやったじや
ありませんか

教会は
ひとつじや
なくてもいい

って



そして
湖畔修道会が

冬の国では
正式な教会として
認められたんですよね

うん

そうだったなあ



だから
思っただんです

勇者も
一人でなくても
いいんじゃないかって

…すみません

なんだか
何を言えればいいか
よくわからなくて



……



いいえ

…むしろ
勇者の苦しみを



…勇者の力が
ほしかったの？

私にも
背負える荷物が
あるのではないかと

私が流せる
血があるのでは
ないかと

そう思いました

私たちは
自らの負債を
勇者様や当主様に
押しつけているの
ではないかって

当主様も
勇者様も
優しいから

特別なことでも
なんでもない
ことのように

世界を
救ってしまいかも
しれないことが
心配です

どんなに
大変なことか

どんなに
感謝しているかを
伝えることも忘れて

甘えて

救われるのを
当然に思ってしまう

—— 私たちが
そんな存在になって
しまわないか
とても心配です



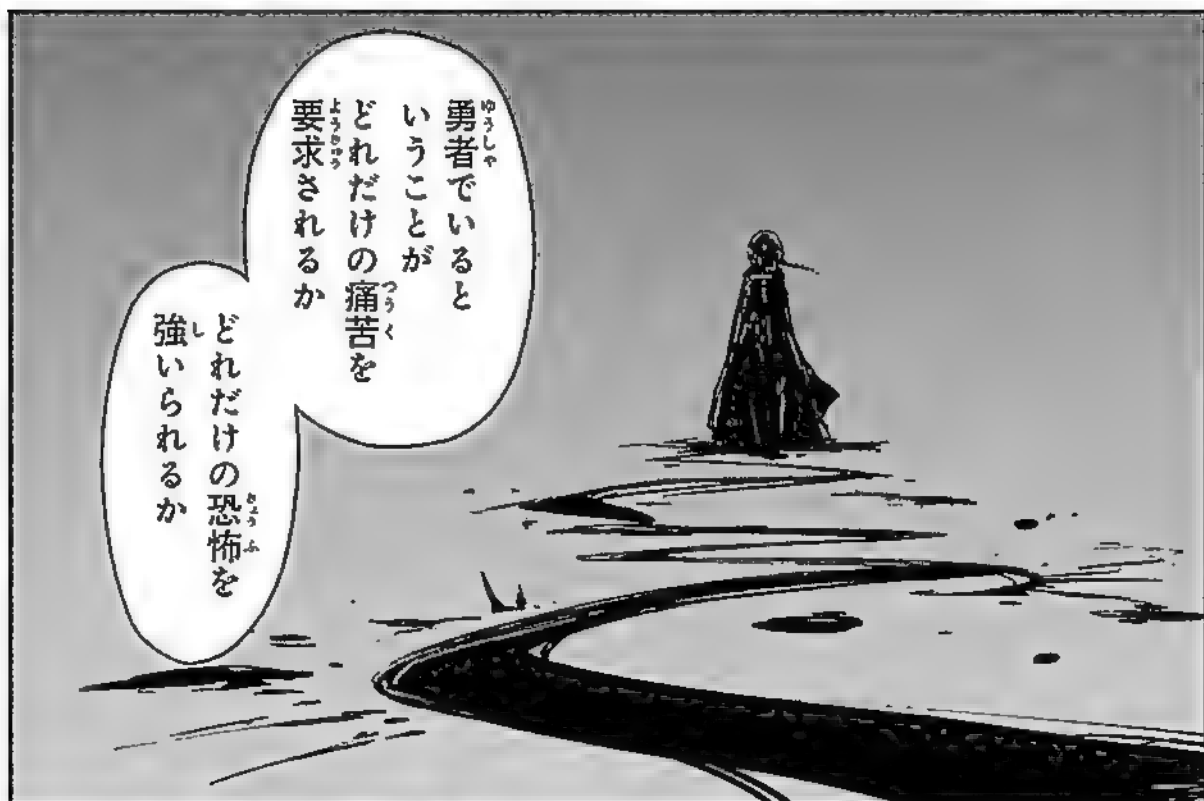
当主様も
勇者様も

血を流すことに
慣れすぎて
いるから

そんなことは
ないよ

それを確認
したいんです

勇者になって



勇者でいると
いうことが
どれだけの痛苦を
要求されるか

どれだけの恐怖を
強いられるか



.....



.....
とめないで
くださいね

私たちは
自由だから

縛られたままでいる
幸福も世界には
あるって知っています

でも

飛び立ってゆく鳥を
留めることが
できないように

私たちは
明日を探しに
飛び出してゆける

本当は誰だって
知っている
はずなんです

そのために
血が必要なら

その席を
譲るわけには
いきません

たとえ相手が
勇者様であっても
当主様でもです

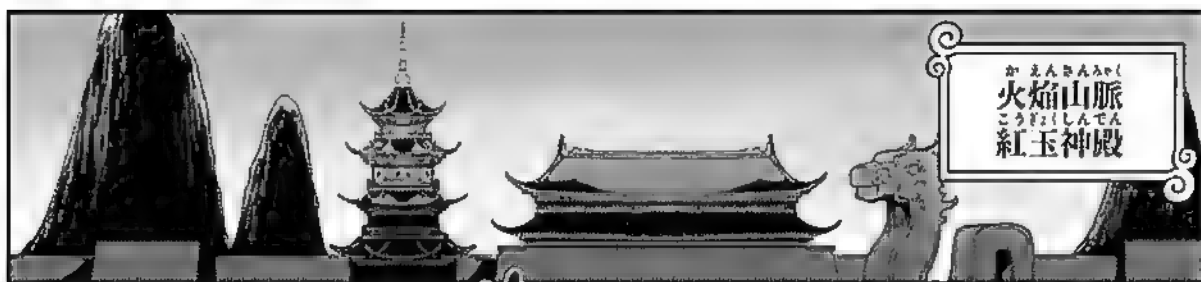


あの人だつて
血を支払つて
いるから

たぶん



元帥^{げんすい}さまだつて
わかつて
くれますよ



か えんさんやく
火焰山脈
こうぎょしんでん
紅玉神殿



なんだ?



都市^{とし}では
今ごろ^{いま}激しい
戦闘^{せんとう}だろうな

そうですね



俺^{おれ}たちは
こうして倉庫^{そうこ}の
資材^{しざい}管理^{かんり}かー

これも
大事な仕事^{しごと}
ですよ

皆
無事^{むじ}
かなあ







父上！
ちちうえ

結納とは
どういうこと
です!?



結納とは
結婚を望む
殿方の家から
とのがた

花嫁の家に送られる
支度金の一種です
はなよめ
いえ
おく
しやくきん
いっしゆ



そのような語義を
聞いているわけでは
ありません！

ふう…

倉庫の荷物の
ことじやな？

そこなる男から
送られてきたのだ

それは
聞きました

妾がお聞きしたいのは
なぜ私の意思も
確かめずに

そのような
仕儀となつたか
ということです

どのような
意図なのですか
商人殿

……
説明
しましょう

これは高度な
政治的判断に基づく
先行投資とでも
呼べる行動で

将来のあり得る
行動オプションの
幅を確保する
ための

自衛的な
防御策です

現在敵対関係にある
南部連合と聖王国

その戦争のさなかにおいて
軍事的防衛手段を持たない
我々同盟が市税や糧食を
大量に持っている危険が…

そういう建前は
どうでもよいのです



妾の家に
結納品を送るのが
商人殿の望みかや？

…そうですね

結果的に
そうなります



妾との
婚姻をお望み
でしょうか？

いや

決して
そういうわけでは
ありません



では

結婚するつもりは
まったくないと

そのように
とられても
困ります

未来は全周的に
広がっている
わけですからね

特定の契約において
将来的な契約の幅を
狭めるのは

感心できない
取引手法です

どうあっても
シラを切るつもりで
ありまするか

それは
心外です

私は誠実な
取引相手です

曖昧な態度は
商人殿の器量の底を
浅く見せまする

機に臨んで
応変なんです



わかって
いただけましたか

感謝
いたします

この二人と
父上では
証人が足りない
とおおせなのですね

そのようなことは
言っていない



開門都市にあつた物資を移動し名義変更する名目として

大量の贈答品を送つても不自然のない事由を選択しただけのこと

どうして話がそこまでこじれるのです

理解できません

こじれるものなにも

商人殿が逃げ回っているのです



は？



違います

魔王です



逃げていません

では開門都市を救ってください

私はただの商人です



妾は
黒騎士殿と
約束しました

幸せになると



ですから
妾は幸せになる
必要があります



黒騎士殿をつつた
妾の良人は

黒騎士殿よりも
ずっとずっと
優れていなければ
なりません



我が背の君は
魔王です

そうでないと
約束を違えます



黒騎士殿が
勇者であるならば



わしも
どうせ嫁に
くれてやるなら

相手はその程度の
大器であってほしいと
思っておった



なぜ私が魔王に
ならなければ
ならないの
ですか!?

魔王であれば
妾も幸せに
なれますし

あの都市を
救ってくれるはずで
あります



…理解できて
いるか?

いえ

まったく



約束して
くださいました

商人殿は
助けてくださると
おっしゃいました

「見返りなし」
という対価で
救いにきてくれると



わかりました

魔王でも
なんでもやりましょう

しかし

こんなのは
言葉遊びにすぎません



はあああ...

失着でした





開門都市に
残られた魔王殿は

あそこでこの戦を
決着させようと
しております



父上



申すがよい



そのために

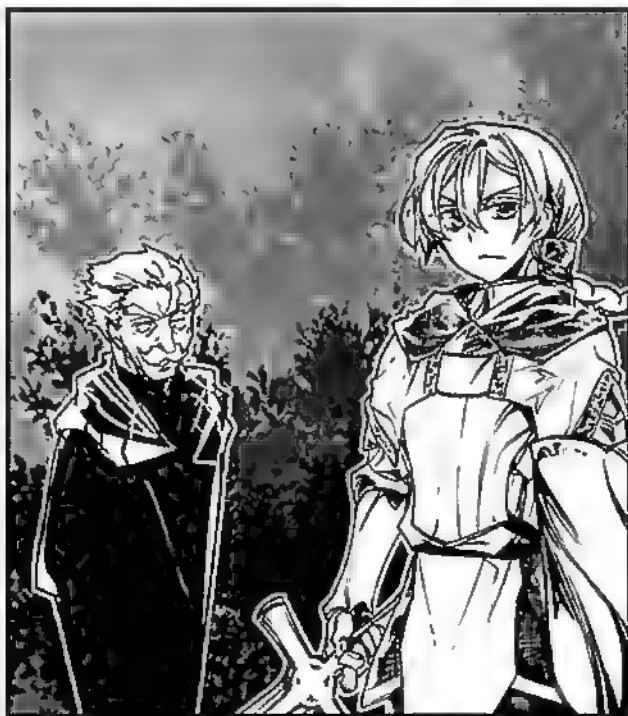
魔王の権威を
預かった議長である
父上に願いたい儀が
ございます



クリルタイ
忽鄰塔を？



クリルタイかいさい
忽鄰塔開催を





我々だけで
襲撃を企てていた
時よりも

さすがです

それは
こちらのセリフだ

被害も小さく
はるかに早い
攻略です

副官殿も
やりますな



報告



しかし

いくら
物資集積地や
輜重隊を落とした
としても

この軍だけの
兵力では…



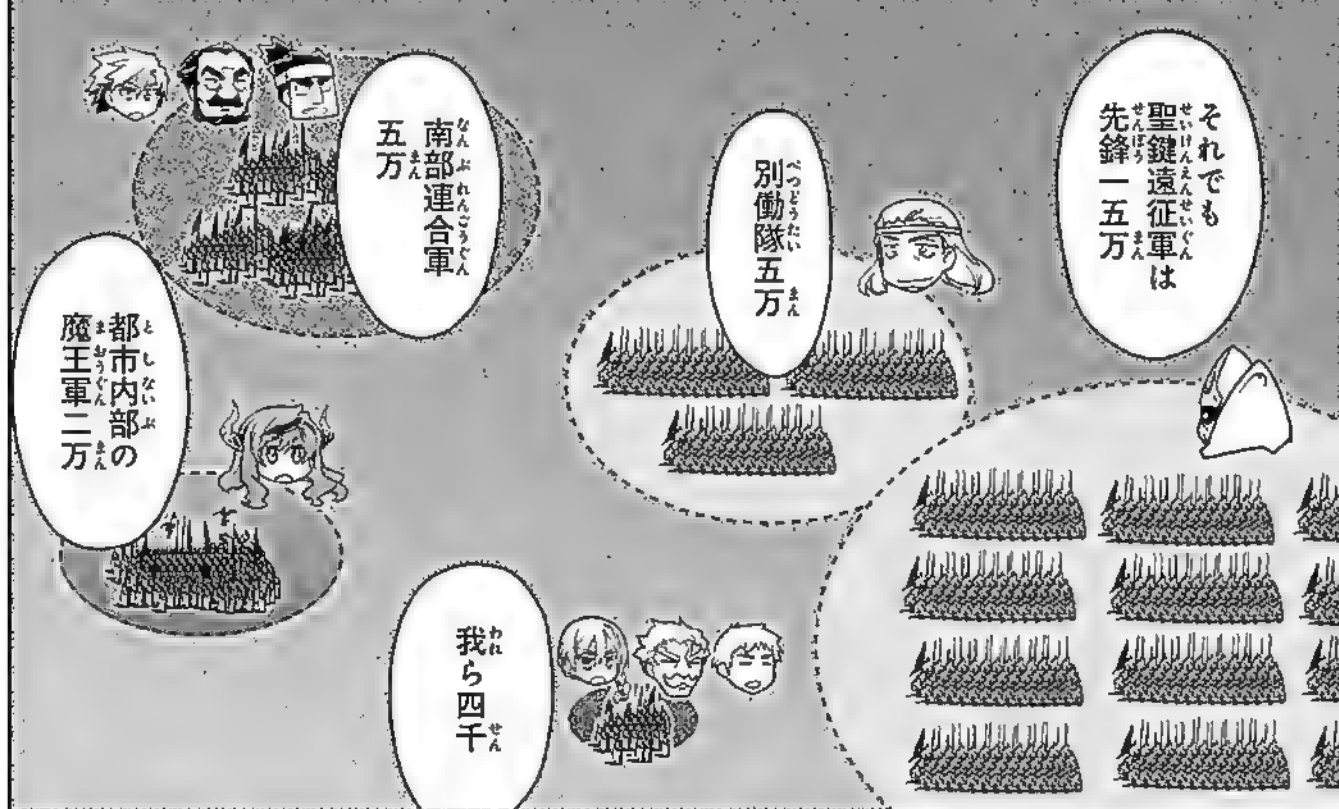
おやお
おやお



大空洞を抜けて
進軍中です



南部連合軍
五万



開門都市

蒼魔の都

迂闊^{うかつ}でした

蒼魔族^{そうまぞく}の領地^{りやうち}は
ここよりさほど
遠くない

二週間^{しゅうかん}もあれば
制圧^{せいあつ}できる程度^{ていど}の
場所^{ばしょ}です

ゲート

いえ

それもですね

地上^{ちじょう}から訪^{まじ}れた
使者^{ししや}たちが
防^{よせ}いだと

地上^{ちじょう}から？

だれですか
それは！

学士^{がくし}様^{さま}……

だそうです

それは
魔王^{まおう}様の^{さま}こと
ですよ？

なぜ魔王^{まおう}様が？

開門都市^{かいもんとし}
いまだに……



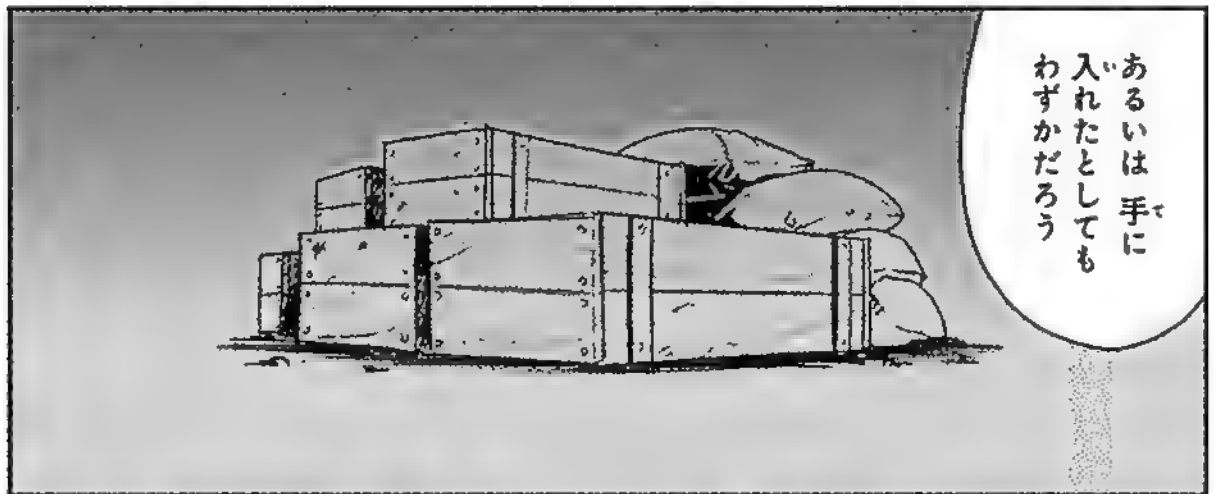
それに
成功したと
いうことは

王弟元帥は
糧食を確保
できなかったと
いうことになる



防いだ
というの
は時間稼
ぎだな？

さよう
だ



あるいは
手に入
れたと
しても
わずか
だろう



どうい
うこと
です



魔王が
言っ
ていた
状況
が訪
れた

…好
機だ



私たちが
やってきた
補給基地の
焼き討ちが

ここにきて
意味を
持ってきた



マスケットの
弱点だよ

それは補給物資を
大量に必要とする
ということだ



後方基地を
こうして攻撃
しつつある今

王弟元帥が
新たに補給に
失敗したとなれば

あの聖鍵遠征軍
二〇万は一気に
飢える



そしてそれ以上に
マスケットの攻撃力が
低下する

…それが
勝機ですね

そうだ

長く苦しい
籠城戦だが

開門都市の
防壁が破れてさえ
いなければ

その防壁は貪欲に
マスキットの弾を
「喰らって」
いるだろう

喰らうとは
すなわち奪うこと

あの防壁は
もはや守りの
壁に非ず

遠征軍の糧食と
火薬を奪う
飢餓の剣

!!



魔王が気づかぬ
はずがない

わかっていて
耐えている

魔王が
諦めるはずが
ないんだ



ここも
もぬけの殻で
ござるな

そのよう
ですね

どうやら遠征軍の
物資集積所だった
ようだな

我らの接近を知り
撤退したのか…？

ここにいたのは

二〇〇〇ほどの
防衛部隊だった
ようです

遠征軍には
遠く届かない
とはいえ

こちらは
五〇〇〇〇
ですからね

悔しいなあ

どうしてだ？

あ

すみません

少しでも
敵を倒せば
あとが楽に
なるかと

気持ちには
わからないでも
ないが

二〇〇〇と
五〇〇〇〇では
速度が違う

追いつける
ものでも
なからう

これは…

戦闘の跡？

どうやら
この部隊を
追い立てたのは
先客…

せっかちな
鬼師匠殿の
ようござる

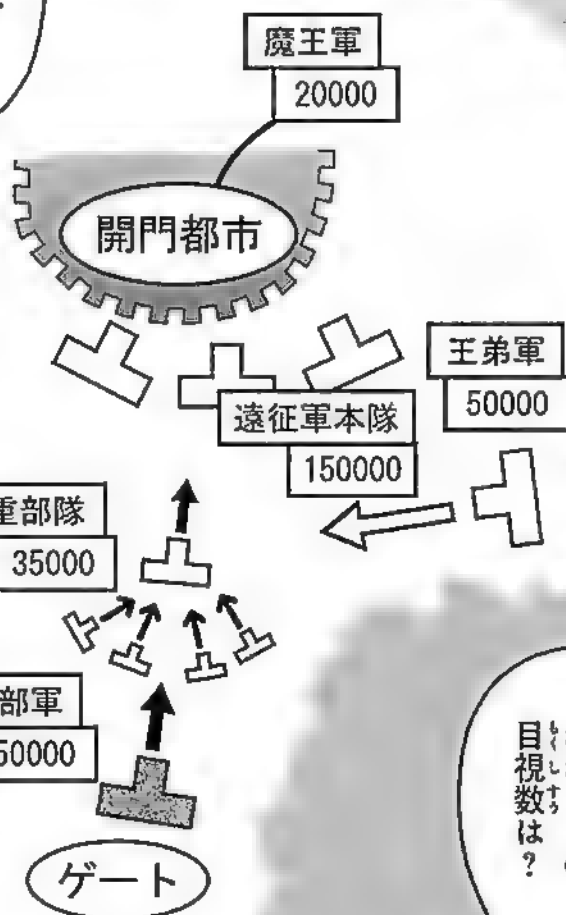




南部連合軍
五万か

その軍は速めの
行軍速度で

我が遠征軍
輜重部隊の後方
八里を進軍中です



輜重部隊の
おおよその
目視数は？

各集積地の
防衛部隊が合流して…

三〇〇〇〇から
三五〇〇〇かと

やはり我々が
南部軍にあたって
輜重部隊を助ける
べきでしょうね

…ふむ

我が軍五万をもつてすれば南部連合五万を相手にするのはまさに不足なし

必ずやこれを打ち破れると確信します

いざとなれば輜重部隊三五〇〇を再編成し

後詰めに置くことも可能

ご決断を

妙だ

?
どうされました?

騎馬による強襲をかけて本隊は追撃中であるとか:

追撃というにはいささか間が開きすぎてはいぬか?

一線交えたのだとすればなぜ八里という距離が開く?
八里といえば丸一日の行軍距離を超えるほど

輜重部隊
35000

南部軍
50000

ゲート

150000

三五〇〇〇の
マスケット部隊を
敗走せしめる
騎馬部隊とは

どのような
規模だ？

そのような
騎馬戦力を

五万の軍が
備えることが
できるというのか？



それに我々は今
蒼鷹族領地を
背負っていることを
忘れてはならぬ

すなわち
あの学士の抱える
南部連合別働部隊だ



五千人
一万か

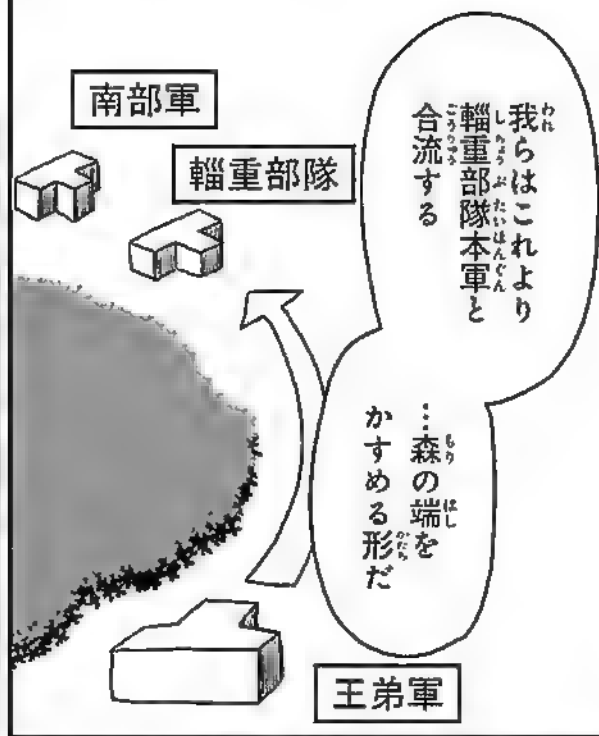
その数は
多くはあるまい

しかし
この友軍の
自由を許せば

横合いから
襲われぬとも
かぎらぬ









この地下世界に
覇権を求める者は

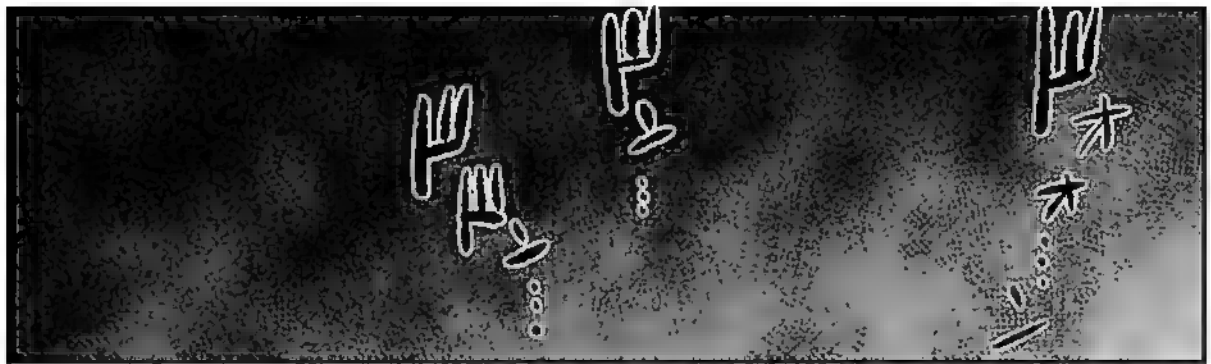
誰であること
マスケットの銃火にて
審判を受けることにな
るのだ



南部連合…
あの女性将軍か？

そうでなければ
鉄腕王 冬寂王の
出陣か？

どちらでも
かまわぬ



すまない

続けてくれ

大丈夫か？

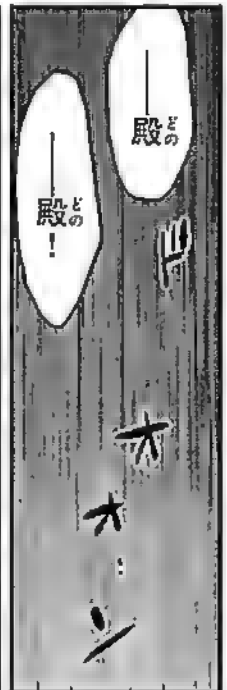
お疲れの
ようですな



ド
オ
ン



魔王殿！

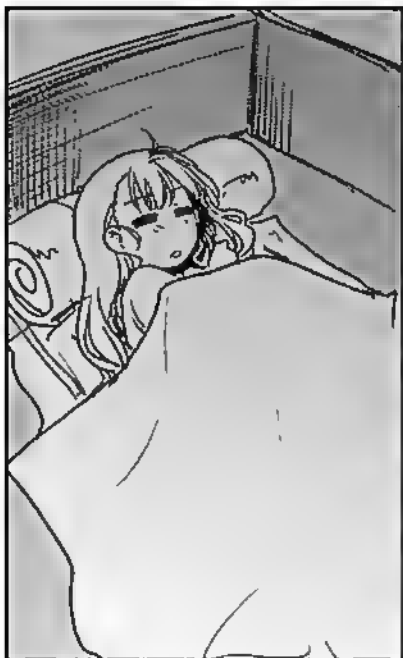


ど
の
殿！

ど
の
殿







…魔王





時^{とき}が
きたのだよ

嘘^{うそ}だ



…この世界^{せかい}は
豊^{ゆた}かだな

こうして耳^{みみ}を
澄^はましておると

世界^{せかい}の至^{いた}る
ところにある

小さな弦^{うた}きや
さざめきが
聞こえる



…悪^{わる}くない

そう言^いったのだ



わからないよ

勇者

期待をするのは
バカのやることよ

……

うん

しかし

期待することを
諦めるのは
唾棄すべき
所行じゃ

期待せよ

なんで
いまさら

そんな

お前はバカだが
決して臆病
ではない

だから

いつかは
「当たりくじ」を
引くことも
できようさ

暇があるのならば
守ってやってくれ

人々を

——彼らは
バカではなく
無知で臆病なのだ

…なあ
勇者

わしは
わしでよかったな

かいこん
悔恨と
失意に満ちた
人生だった

さいご
最後になって
やっと
帳尻があつた

お前がいて
楽しかったよ

…わしはどうやら
時を得たようだ

いやだつてば

そんなの
いらないつてば！

…甘えて
ばかりでは
ダメだ

ねだつても
与えられは
しない

は…
は…



勇者

最後の教えだ



期待は
するな

しかし

与えて
勝ち取れ



おまえの友を

お前の
大事な人々を

与えられた
時間を有意義に
使うがよい

——やがて行く
闇への旅路には

思い出の他には
何も持っていくことは
できないのだから



期待せよ

いつかはじまる
お前の物語に

結納について

結納は婚約が成立した当事者の
家同士のあいだで行う儀式。
これから付き合うことになる
両家にとって最初の一步だ。



火竜公女が知らぬ間に、火竜大公のもとには青年商人から結納という名目で大量の小遣が運び込まれていた。

日本では皇室が起源とされる風習

近年は妊娠を機に結婚する「デキ婚」も増えているが、本来は婚約をしたのちに結婚という流れが世界的にも伝統だった。そして、婚約が成立した両家のあいだで行われるのが結納だ。

結納とは、成立した婚約を確約する意味で、両家が品物などを取り交わすこと。日本の場合、4〜5世紀頃の仁徳天皇が黒媛を妃に迎える際に贈り物を送ったのが最初といわれ、皇室では「納采の儀」と呼ばれる宮中儀礼として現代でも受け継がれている。

時代が下った室町時代頃になると、この宮中儀礼をもとに公家や武家のあいだで結納の風習が広まり、礼法を司る伊勢氏や小笠原氏によって体系化された。そして、江戸時代末期から明治初期にかけて、庶民のあいだでも結納が習慣になったといわれる。

結納品として贈る品物は、5〜9品程度の奇数で贈られるのが一般的だ。品物が奇数なのは、奇数を陽数と呼んで縁起がよいとする一方で、偶数を陰数と呼んで縁起が悪いとしている陰陽道に由来している。ただし、現在ではこうした本来の意味合いは薄れつつあり、「8は末広がりのよい」といった新たな認識も生まれているようだ。

また、結納は東日本では両家のあいだで「交わす」ものであるのに対し、西日本では新郎側が新婦側に「納める」のが一般的という違いがある。結納品として扱われる品は地域によってさまざまだが、長寿や家の繁栄といった何かしらの意味づけがされているものも多い。高い繁殖力から、子孫繁栄の願いを込めた子生姉（昆布）、口持ちがすることから末永い幸せを願った寿留女（スルメイカ）の干物、広げた形から末広がりの繁栄の象徴とされる寿恵廣（すえひろ）扇子のことなどは、比較的どの地域でも見られる品だろう。

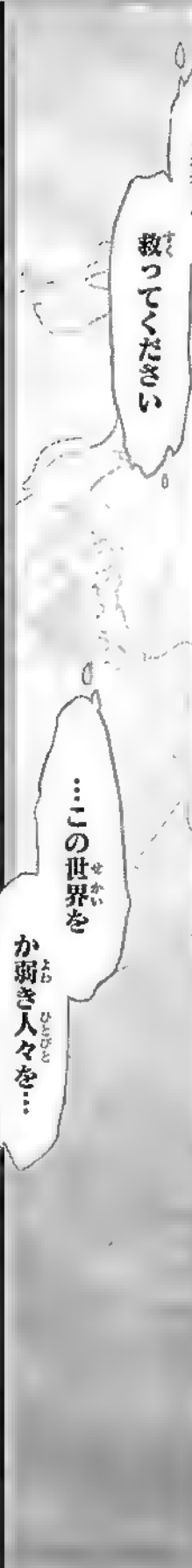
なお、「御帯料」や「帯地料」などと呼ばれる結納金は、着物や帯を贈っていたことに由来する。

男性が一家を養うのが当たり前だった時代では、結納は新郎側の財力を示す意味もあったのだらう。いずれにせよ、地域の儀式的要素が強いものなので、先方に対し礼を失するようなことだけは避けたいものだ。



青年商人はあくまで物資輸送の名目だったようだが、火竜公女に押し切られて彼女の要求をのむことに。

対峙



イラストギャラリー











角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」(15)

漫画：石田あきら

原作：橙乃ままれ

キャラクター原案：水玉螢之丞・toi8

©Akira ISHIDA 2015

©2011 Touno Mamare

2015年7月25日 発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました

角川コミックス・エース『まおゆう魔王勇者「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」(15)』

2015年7月25日初版発行

発行者 青柳昌行

発行所 株式会社KADOKAWA

<http://www.kadokawa.co.jp/>

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

03-3238-8521(カスタマーサポート)

編集企画 コミック&キャラクター局
コンプエース編集部

装幀・デザイン：沼利光 (D式Graphics)

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。

また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。

本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず

本作品を第三者に譲渡することはできません。

本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に

予告なく変更される場合があります。

ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

今この時より名乗りましょう





原作 石田あきら 漫画 橙乃ままれ

キャラクター原案 永玉堂之巻・toi8

Archenemy
and Hero

魔王 勇者

「この我のものとなれ勇者よ」 「断る！」

まおゆう 第十四巻のあらすじ

Lectures on Archenemy and Hero
Outline of volume.14

「魔王」と「勇者」の劇的な出会いから3年。人間界の「冬越し村」を拠点に始まった二人の活動によって、世界はその姿を大きく変えていった。魔王がもたらした技術や知識によって、「冬の国」や「鉄の国」、「氷の国」といった南部の人々の暮らしは大きく改善。国力をつけた三国は大陸に君臨する「聖王国」や「中央聖光教会」からの自立を果たし、のちに大陸東部に位置する五力国と七つの独立都市をふくめた「南



総大将を
鉄腕王として
我ら南部連合も
魔界へ派兵する



少なくとも
我らには
豊富な糧食と
地の利がある
やはり
打って出るべき
だろう



どうでしょう
ここは軍を
二分しては

二正面作戦は
定石からいえば
悪手ですが

さいわい
聖徒遠征軍には
それを可能にする
だけの兵力がある

部連合」の結成に至った。
一方、魔界では魔族の大会議である「忽鄰塔^{クリルタ}」で発生した魔王暗殺未遂事件をきっかけに、有力氏族長たちの結束が強化されていく。そして、地上へ侵攻した蒼魔族の討伐や新たに開始された街道の整備事業などを通じ、これまでになりに氏族を超えた協力体制も築かれつつあった。さらに、南部連合は勇者の仲介で魔界の代表として訪れた「妖精女王」との対話にのみ、人間と魔族の停戦、さらには将来の平和条約締結に向けて大きな一歩を踏み出した。

こうした世界の変化は、おおむね魔王が予測していたものでもあった。しかし、この過程で流出したマスケットに関する技術が聖王国に新たな軍制



と新兵器・大砲の発明をもたらし、予想外の問題を引き起こす。それが、聖光教会の首長・「大主教」が興した「第三次聖鍵遠征軍」だ。大量生産されたマスケットは短期間での兵士育成を可能とし、聖鍵遠征軍は30万という未曾有の大軍が動員された。「聖骸」を求めて動き出した彼らは「蔓穂ヶ原」での戦いを経て魔界に侵攻。補給地確保のため蒼魔族の地に向かった分遣隊5万を除く攻



楽しい
戦だったぞ
魔王殿



界へと集まりはじめた――。

開門都市が危機を迎えるなか、蒼魔族の地に到着した「王弟元帥」の前に「メイド姉」が立ちはだかる。人間界では修道院騎士団や義勇兵を率いた「女騎士」が出発し、南部連合も派兵を決定。主だった人々が魔



略軍が、人間と魔族とが共存する「開門都市」に迫る。6万の魔族軍は敵の数を減らそうと野戦を挑むが、遠征軍の飽和攻撃の前に3万という甚大な被害を受けて退却。人間界から戻った魔王や「銀虎公」の働きで全滅はまぬがれたが、乱戦のなかで魔王をかばった

銀虎公も戦死する。

まおゆう 主要人物の所在

Lectures on Archenemy and Hero
Location of the Characters

人間界

(地上世界)



冬寂王

鉄の国で開かれた南部連合首脳会議の決定を受け、現在は冬の国に戻って派兵の準備を進めているもよう。



軍人子弟



メイド妹

軍人子弟は南部連合首脳会議の決定を受け、魔界へ出発するため準備中。メイド妹の所在は不明だが、鉄の国で料理の修業をしていると思われる。



王弟元帥



勇者

王弟元帥は5万の分遣隊を率い、本隊と分かれて蒼魔の地へ。勇者もこれに同行している。



メイド姉

竜の山脈にて火竜大公との謁見を済ませたのち、傭兵たちを率いて移動。王弟元帥の分遣隊に先んじて蒼魔の地へ入っていた。



青年商人

湖の国にある「同盟」作戦本部に滞在。聖光教会が独占する為替事業に進出するべく、具体的な下準備に入っている。



大主教・灰青王・百合騎士団長

灰青王は聖鍵遠征軍の主力を率いて開門都市を攻略中。百合騎士団長は灰青王の補佐をしつつ、天幕で戦勝の報を待つ大主教の世話をしている。



魔王



火竜公女



東の砦将



土木子弟

・紋様の長・鬼呼の姫巫女

聖鍵遠征軍との会戦ののち、魔王は開門都市で陣頭指揮にあたっている。魔王の命により、東の砦将は防衛軍の総司令官として敵の迎撃、鬼呼の巫女は内務全般、土木子弟は防壁修理班長として施設の修復を担当することになる。また、負傷した紋様の長は療養中。火竜公女は都市の自治委員会とともに、姫巫女の補佐をしているもよう。

開門都市について

開門都市は、人間界と魔界とを繋ぐゲートにもっとも近い位置にある。かつてのゲートは誰もが気軽に通れるという性質のものではなかったが、勇者がゲートを破壊したことで「大空洞」という巨大な洞穴ができた。のちには「同盟」の商人たちの依頼で土木子弟が橋を建設しており、人間界と魔界は実質的に地続きとなっている。誰もが往来できるようになったことで、開門都市がもつ「魔界の玄関口」としての性質は、より

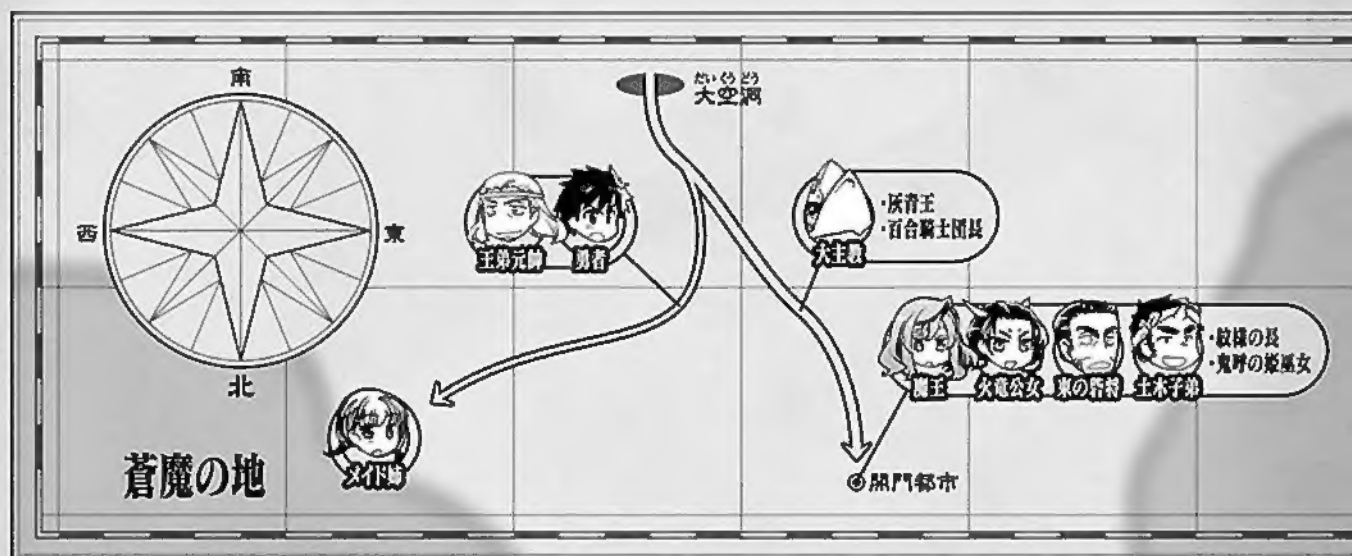
強くなったといえる。第三次聖鍵遠征軍が開門都市を攻略しようとしているのは、魔界へ進出するうえでの橋頭堡として、開門都市が戦略的に重要な位置にあることが大きな要因だと思われる。火砲を備えた聖鍵遠征軍に対し、兵数や装備の面で不利な魔族側はかなり苦戦している。ただ、開門都市の防壁は砲撃にも耐えられるもので、これをめぐる攻防が今後の戦局を左右するだろう。

魔界

(地下世界)

竜の山脈

とう けつげん かいせん
凍結限界線





期待せよ

…いつかはじまる
まえものだから
お前の物語に

